

不動産投資と収益物件の情報サイト



不動産投資に関する意識調査 (第25回)

結果報告書

健美家株式会社

2026年6月8日

■お問い合わせ 健美家株式会社 広報室 E-mail : press@kenbiya.com

※調査データを引用する際は、「不動産投資と収益物件の情報サイト 健美家（けんびや）」と明記をお願いします

■ 目次

1. 投資用不動産の市況について	p.03 – p.14
2. 物件購入について	p.15 – p.17
3. 物件購入時の融資環境について	p.18 – p.22
4. 市場変調による「投資計画の誤算」と運営の教訓について	p.23 – p.25
5. アンケート回答者の属性	p.26 – p.28

■ 調査対象

健美家（けんびや）登録会員 約20万名

■ 有効回答数

470名

■ 調査期間

2026年4月17日（金）～5月1日（金）の15日間

■ 調査方法

インターネット上でのアンケート回答

【調査トピックス】

1. 現在の不動産投資市況について

- ・1年前と比べ「価格が上昇している」が66.2%で最多。2025年10月調査（77.9%）から11.7ポイント減少したものの、依然として約7割が上昇傾向を実感（p.3）
- ・上昇の背景として「建設費や資材価格の高騰」が82.3%と圧倒的多数を占め、物価高が価格高止まりの最大の要因に（p.4）
- ・売り時か買い時かについては「どちらともいえない」が60.9%で最多となり、2025年10月調査（43.0%）から大幅に増加して様子見姿勢が強まる（p.7）

2. 物件購入について

- ・2025年4月以降に物件を「購入した」は42.6%にとどまり、2025年10月調査（57.6%）から15.0ポイント減少して半数を下回る結果に（p.15）
- ・実際に購入された物件種別は「一棟アパート」が44.0%で最多。また、現在「積極的に探している」種別でも「一棟アパート」が71.2%で最多を占める（p.15、p.16）
- ・積極的に探している地域は「神奈川・千葉・埼玉」が45.1%で最多となり、僅差の「東京（44.6%）」を含む一都三県へ投資需要が集中（p.17）

3. 物件購入時の融資環境について

- ・金利が1年前と比べて「上がった」との回答が85.3%で最多となり、2025年10月調査（78.5%）からさらに増加して金利上昇局面が一段と鮮明に（p.20）
- ・融資期間は「21～30年（39.5%）」が最多となり、さらに「31年以上」も28.7%へと大幅に増加するなど、長期融資化が顕著に（p.21）
- ・利用した金融機関は「地方銀行」が42.6%で最多となる一方、「信用金庫・組合」は24.0%となり、2025年10月調査（43.0%）から19.0ポイント減少（p.19）

4. 市場変調による「投資計画の誤算」と運営の教訓について

- ・新規参入者へのアドバイス首位は「収支計画・資金管理関連」（27.4%）、次いで「勉強・事前調査関連」（26.4%）となった（p.25）

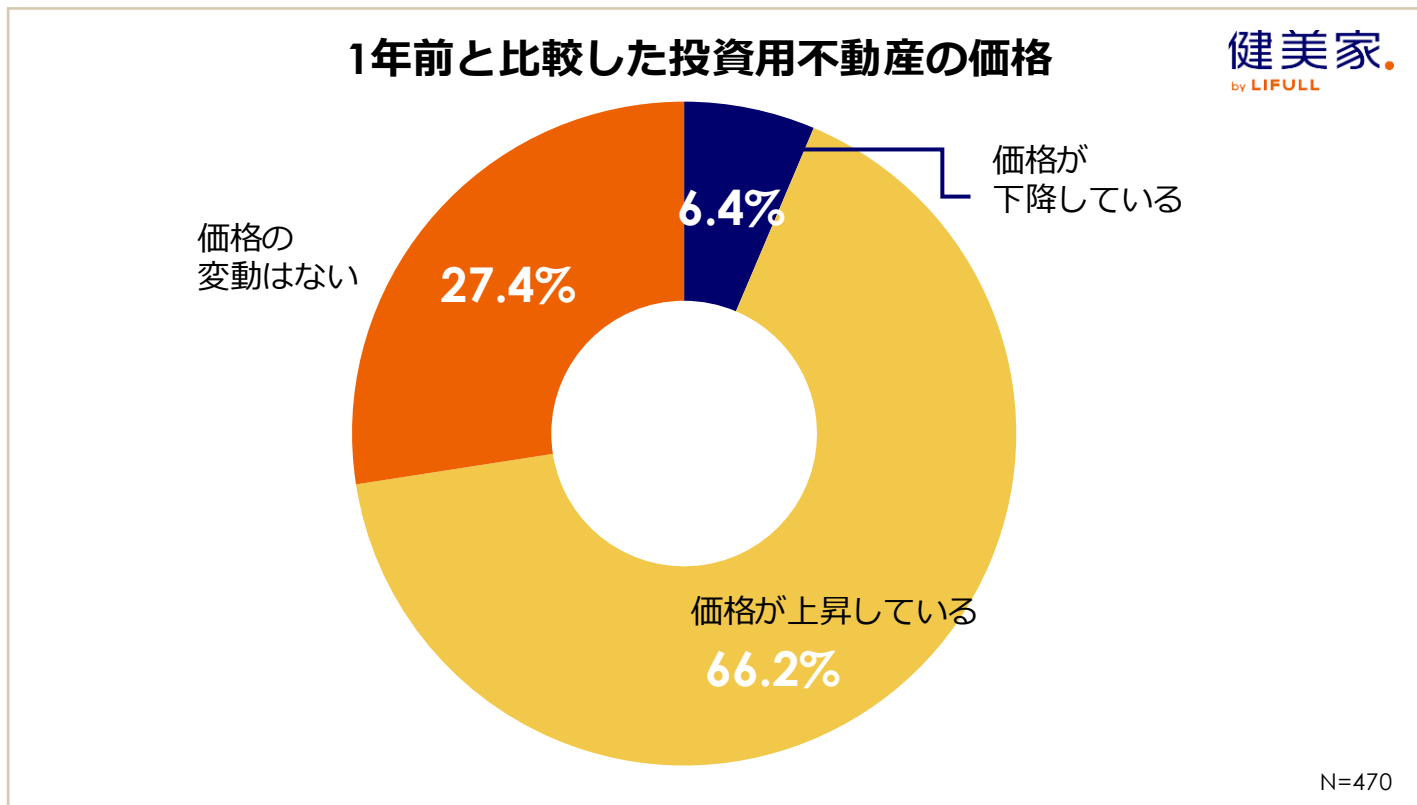
※本調査は年2回実施しており、設問によって、前回調査（2025年10月）または前年調査（2025年4月）等と比較を行っている

1. 投資用不動産の市況について

Q 現在の投資用不動産の価格について、1年前と比べるとどう感じていますか？

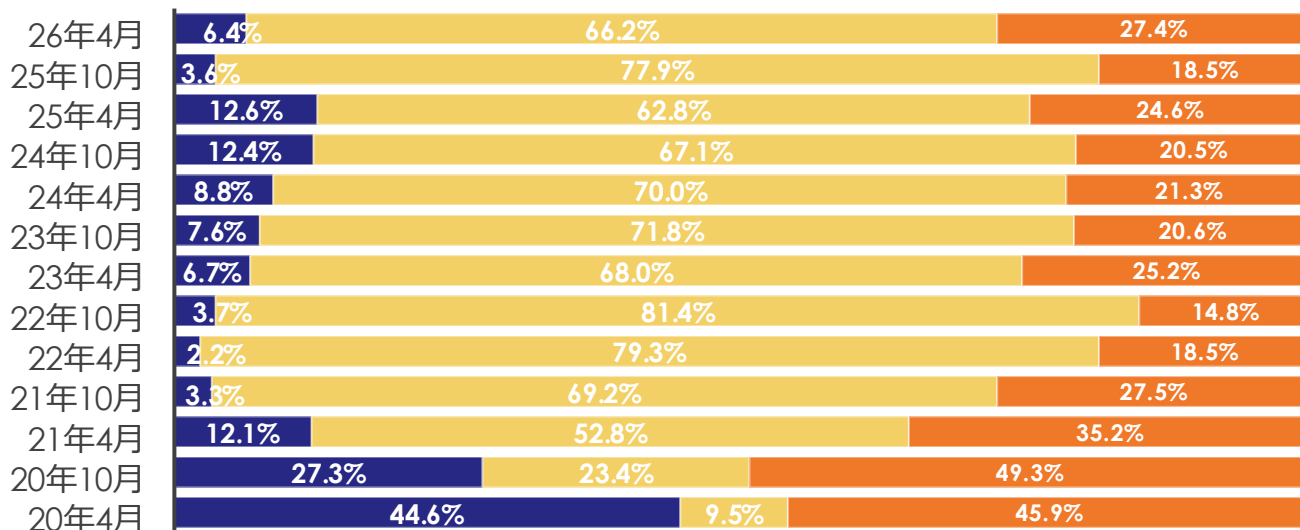
「価格が上昇している」が最多で66.2%

現在の投資用不動産の価格について、1年前と比べると「価格が上昇している」との回答が66.2%で最多。前回調査（77.9%）からは11.7ポイント減少したものの、依然として約7割の投資家が価格の上昇傾向を感じている。一方で、「価格の変動はない（27.4%）」や「下落している（6.4%）」との回答も一定数を占めた。



【経年変化】

■ 価格が下降している ■ 価格が上昇している ■ 価格の変動はない



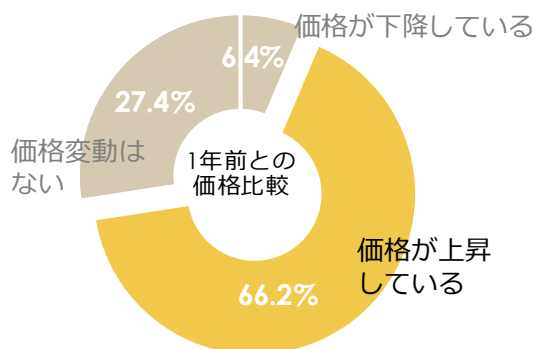
1. 投資用不動産の市況について

1年前と比べて「価格が上昇している」と回答した方への質問

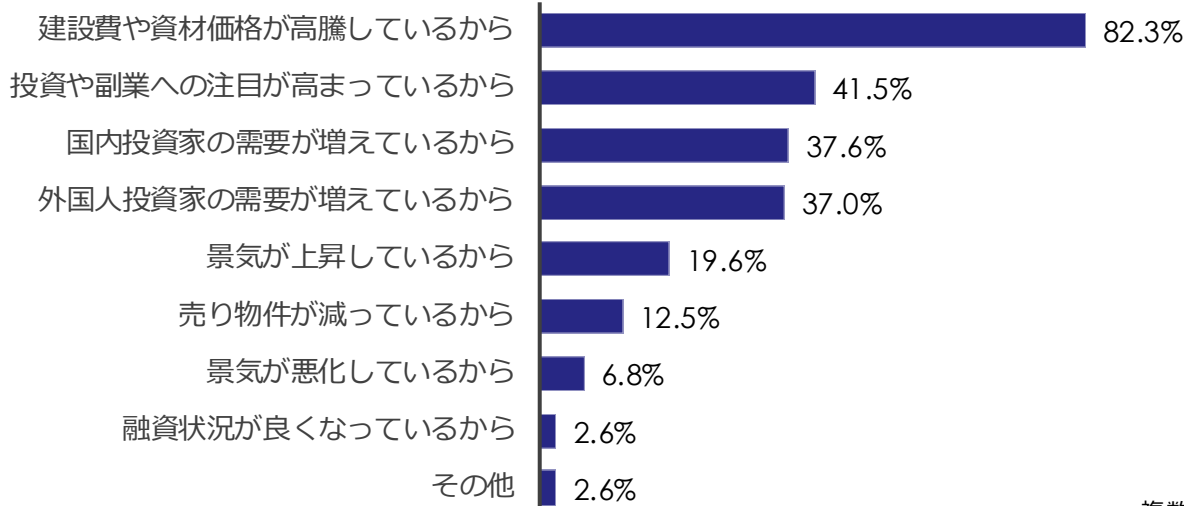
Q 価格が上昇していると思う理由は何ですか？

「価格が上昇している」理由は「建設費や資材価格が高騰しているから」が最多で82.3%

1年前と比べて価格が「上昇している」と回答した理由の最多は、「建設費や資材価格が高騰しているから」の82.3%で、2番目に多い「投資や副業への注目が高まっているから」の41.5%を大きく引き離す結果となった。



価格が上昇していると思う理由



複数回答可

「価格が上昇している」と回答した方 n=311

【その他の回答】

- ・ インフレ率の上昇
- ・ 資材価格の高騰、建設関連人口の減少による人件費の高騰
- ・ 新築のコスト上昇に釣られて、中古の価格設定が上げられている
- ・ 不動産価格の構造的上昇と趨勢的インフレと価格転嫁
- ・ 物価が上昇しているから
など

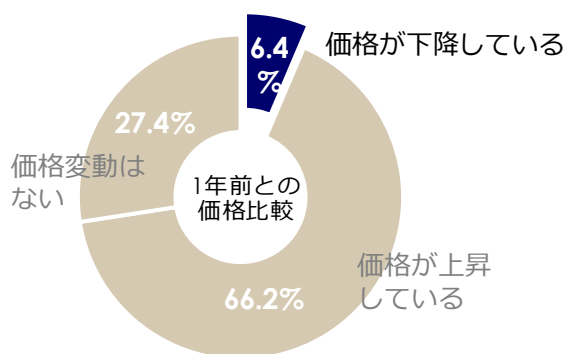
1. 投資用不動産の市況について

1年前と比べて「価格が下降している」と回答した方への質問

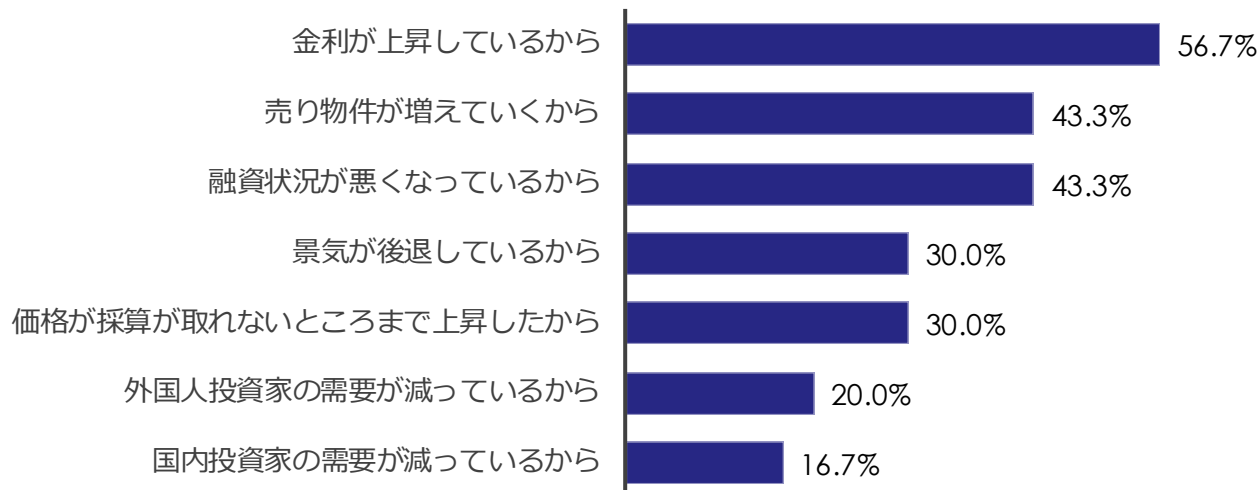
Q 価格が下降していると思う理由は何ですか？

「価格が下降している」理由は「金利が上昇しているから」が最多で56.7%

1年前と比べて価格が「下降している」と回答した理由の最多は、「金利が上昇しているから」の56.7%で、2番目に多い「売り物件が増えていくから」「融資状況が悪くなっているから」（共に43.3%）を大きく引き離す結果となった。



価格が下降していると思う理由



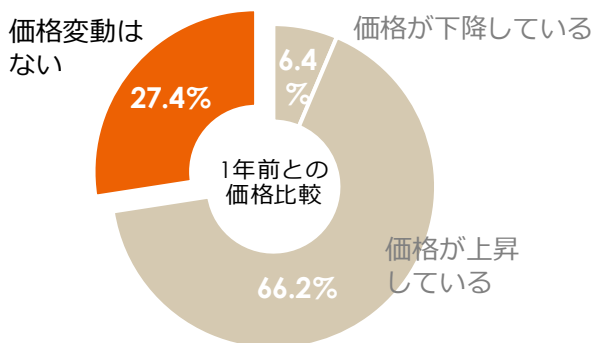
複数回答可
「価格が下降している」と回答した方 n=30

1. 投資用不動産の市況について

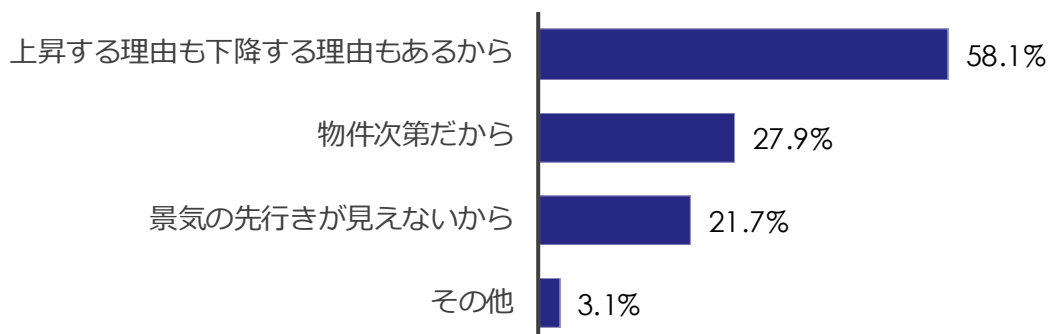
1年前と比べて「価格変動はない」と回答した方への質問

Q 価格変動はないと思う理由は何ですか？

「価格変動はない」理由は「上昇する理由も下降する理由もあるから」が最多で58.1%



価格変動はないと思う理由



複数回答可
「価格変動はない」と回答した方 n=129

【その他の回答】

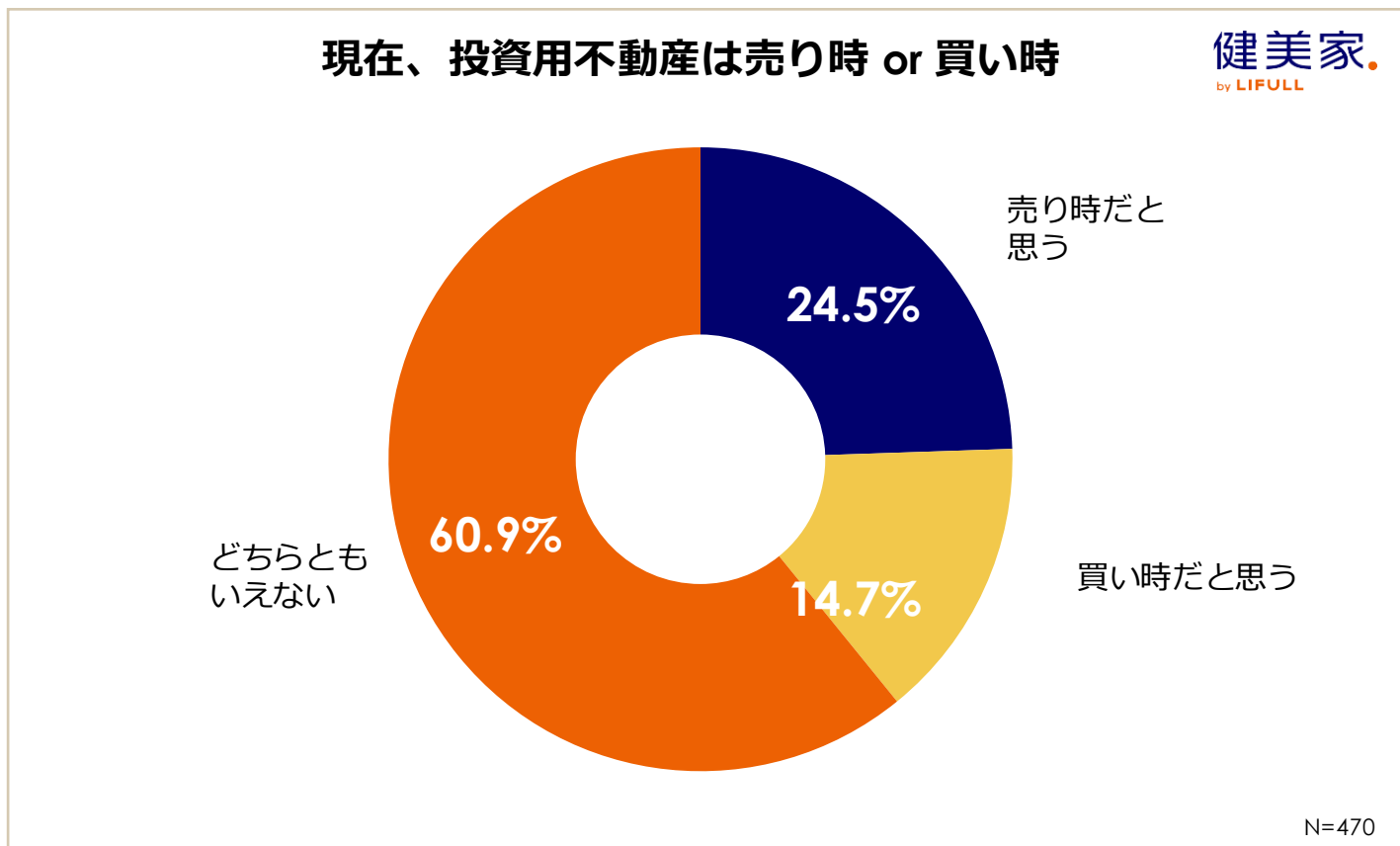
- そろそろ価格上昇が頭打ちになってきているように感じる
- 価格が上がりきった後だから
- 始めたばかりでよく分からないから
- 売り主の意識次第

1. 投資用不動産の市況について

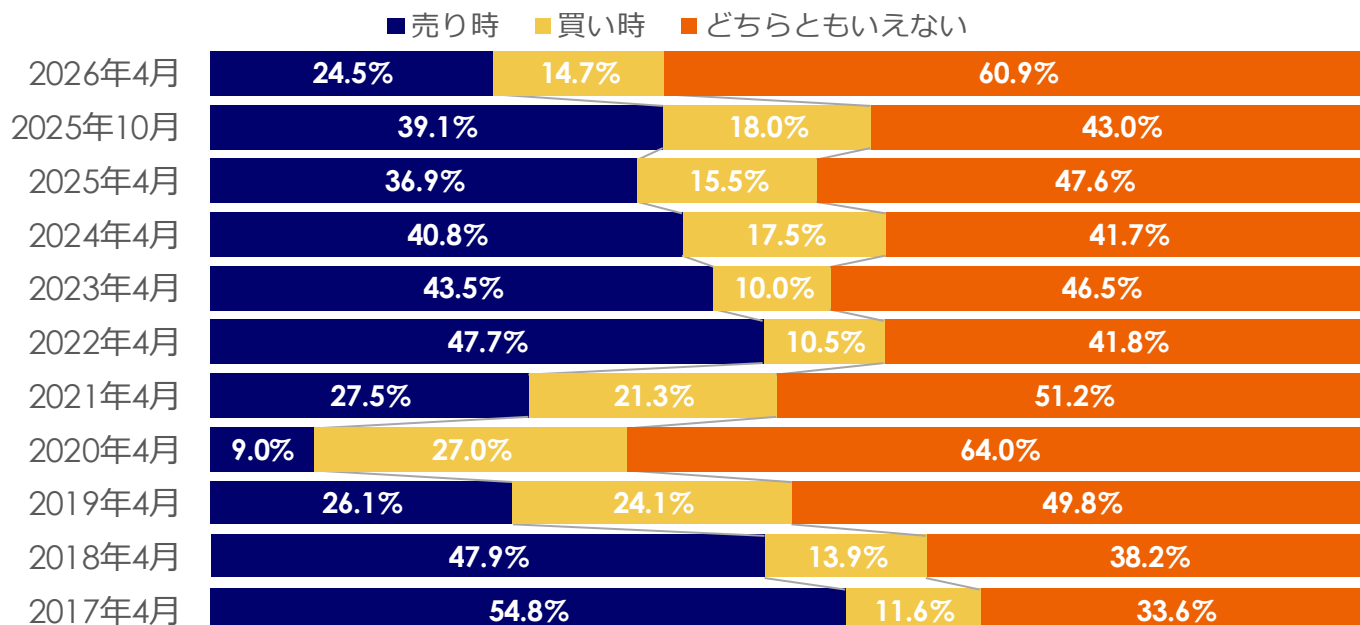
Q 現在、投資用不動産は売り時だと思いませんか、買い時だと思いませんか？

「どちらともいえない」60.9%、「売り時」24.5%

現在の投資用不動産が売り時か買い時かについて、「どちらともいえない」との回答が60.9%で最多となり、前回調査（43.0%）から大幅に増加した。一方で、「売り時だと思う」は24.5%（前回39.1%）、「買い時だと思う」は14.7%（前回18.0%）となり、いずれも前回から減少する結果となった。



【経年変化】



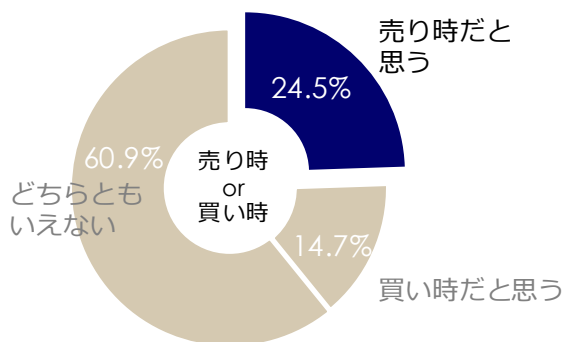
1. 投資用不動産の市況について

「売り時だと思う」と回答した方への質問

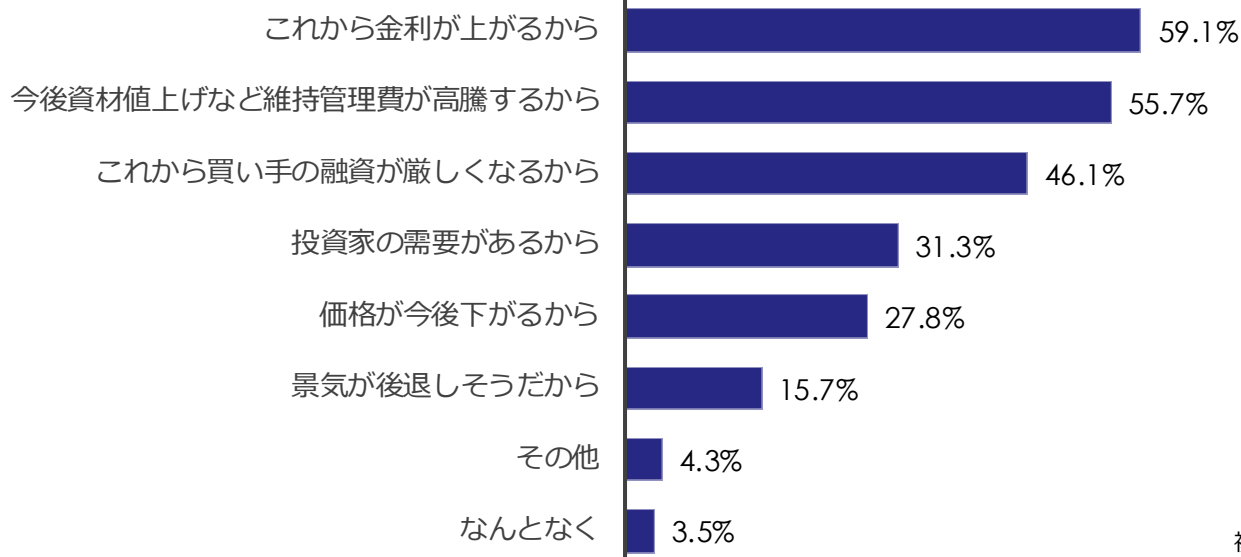
Q 売り時だと思う理由は何ですか？

売り時だと思う理由は「これから金利が上がるから」59.1%

「売り時だと思う」と回答した理由の最多は、「これから金利が上がるから」の59.1%となった。続いて、「今後資材値上げなど維持管理費が高騰するから」が55.7%で2番目に多く、前回調査（31.3%、4番目）から順位を上げた。



売り時だと思う理由



複数回答可
「売り時だと思う」と回答した方 n=115

【その他の回答】

- ・ 税金面、入居者質低下等で利益が10年前より悪化
- ・ 新築が少なくなると予想するため
- ・ 一旦利確して次に進む時だと思うから
- ・ 5年くらい前に購入した物件なら、現在の価格上昇に伴い売却金額も上昇し、購入当初に近い金額で売れるから
- ・ 新旧入れ替え時期から、つまり老朽化建物と新築入れかえ過渡期から築古に関しては売り時と考えるなど

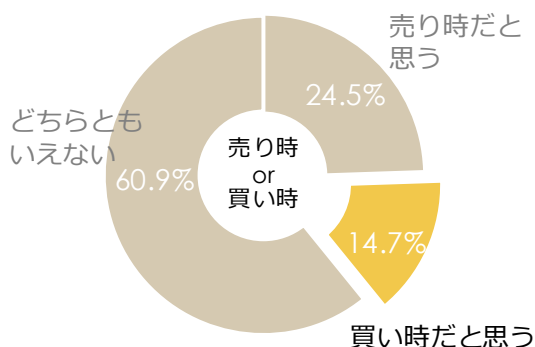
1. 投資用不動産の市況について

「買い時だと思う」と回答した方への質問

Q 買い時だと思う理由は何ですか？

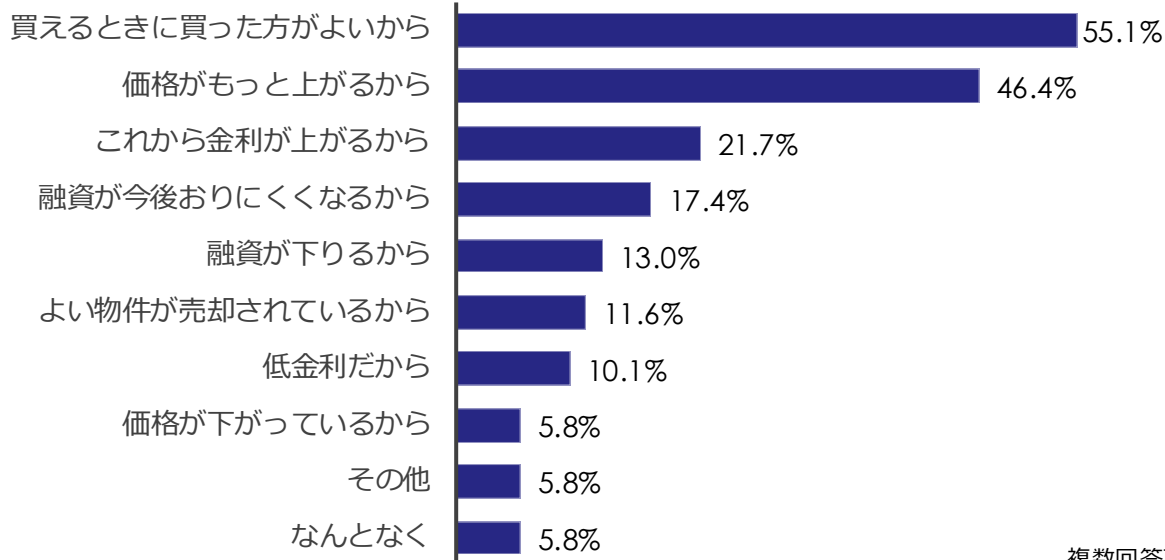
買い時だと思う理由は 「買えるときに買った方がよいから」が最多で55.1%

「買い時だと思う」と回答した理由の最多は、「買えるときに買った方がよいから」の55.1%となった。続いて「価格がもっと上がるから」が46.4%で2番目に多く、上位2つの順位に変動はなかった。また、「これから金利が上がるから」が21.7%で3番目に続いた。



買い時だと思う理由

健美家
by LIFULL



複数回答可
「買い時だと思う」と回答した方 n=69

【その他の回答】

- 待っていても状況がさらに良くなることはないから
- 今後は新規建築費用の高騰のため、既存建物が相対的に割安になる為
- 自分は借入割合を安全に保ちながら取り組んでいるから
- 今が1番安い
など

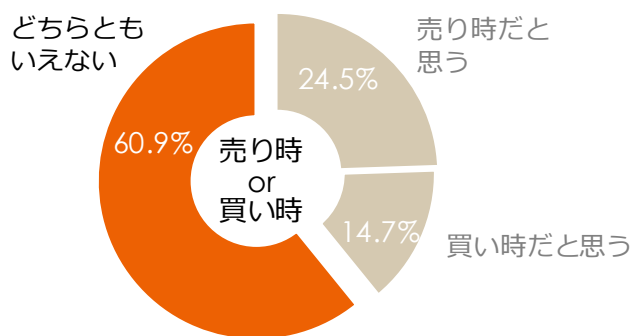
1. 投資用不動産の市況について

買い時か売り時か「どちらとも言えない」と回答した方への質問

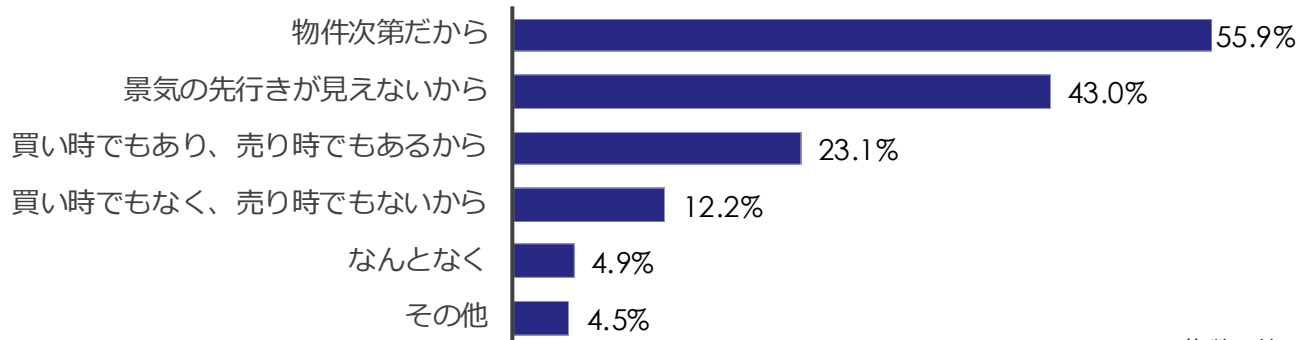
Q どちらとも言えない理由は何ですか？

「どちらとも言えない」の理由は「物件次第だから」が最多で55.9%

買い時か売り時か、「どちらとも言えない」と回答した理由の最多は、「物件次第だから」の55.9%。続いて、「景気の先行きが見えないから」が前回の19.4%から大幅に増加して43.0%となり、2番目に浮上した。



どちらともいえない理由



複数回答可
買い時か売り時か「どちらとも言えない」と回答した方 n=286

【その他の回答】

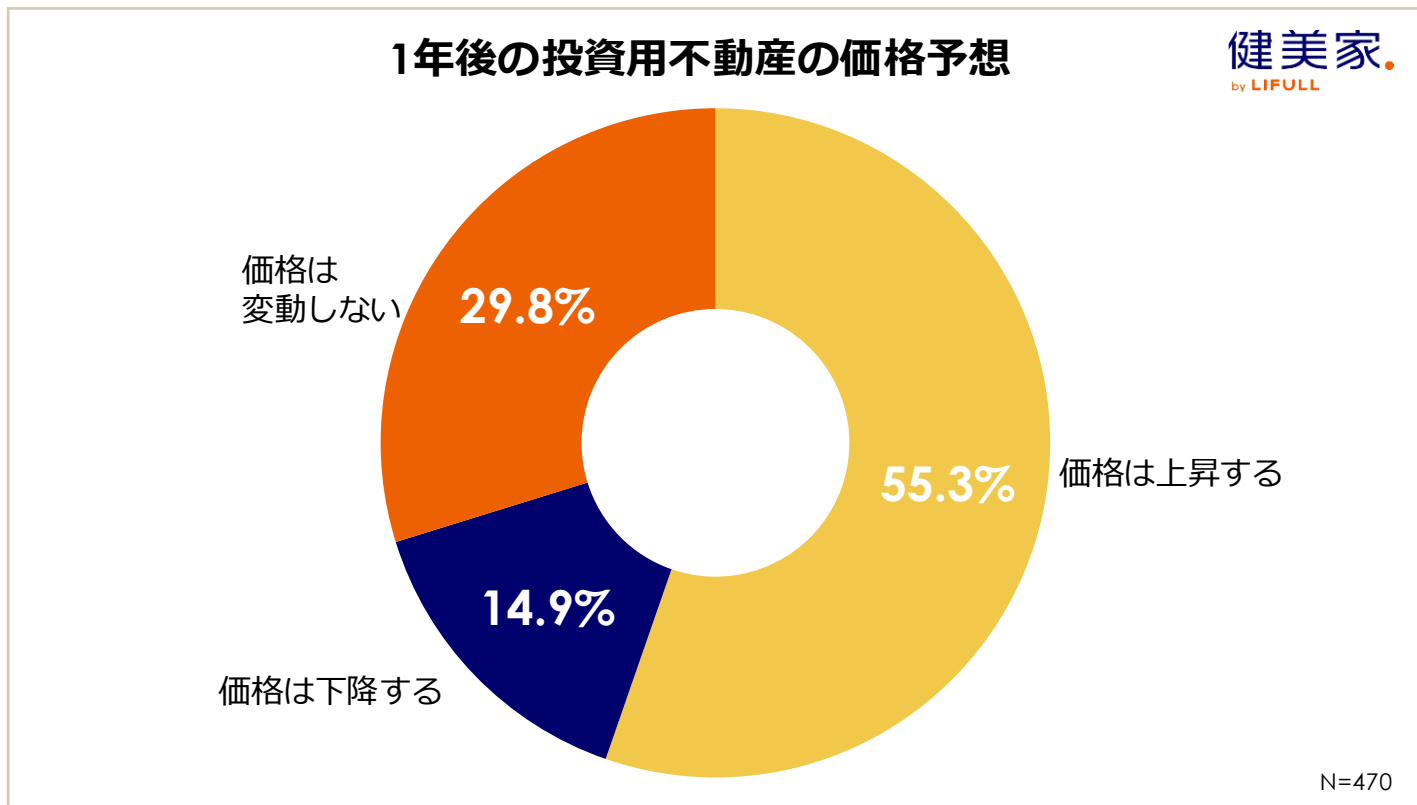
- 自分にとって買い時と思う時が買い時になるから
- いつも買い時
- その人の状況次第、今参入している人には今が買いたい、昔を知っている人は今は買えない
- 戦争の終結が不透明で物価が読みづらい
- 高所得者と低所得者の賃金は上昇するが、中間層は賃金上昇がインフレ負けすると考えているので、物件のターゲットによって状況は異なると思うので
- 保有していくものだから
- すでに金利上昇/買える投資家が限られてしまっている。選択肢がないように感じる
- 一時的に価格下落があると思うので買える物件が出てくる
- インフレと金利の動向が不透明など

1. 投資用不動産の市況について

Q 投資用不動産の価格は1年後、どうなると思いますか？

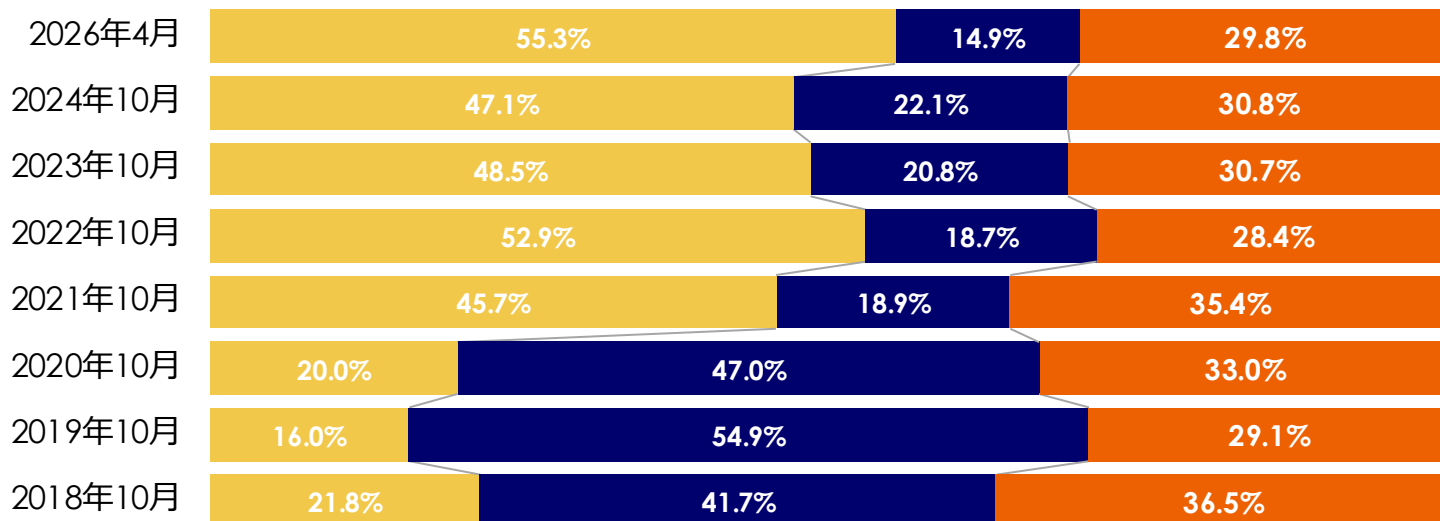
1年後「価格は上昇する」が最多で55.3%

1年後の投資用不動産の価格予想について、「価格は上昇する」との回答が55.3%で最多となった。2024年10月時調査（47.1%）から8.2ポイント増加し、過半数の投資家が今後の値上がりを見込んでいる。一方で、「価格は変動しない」が29.8%、「価格は下降する」が14.9%となり、下落予測は2024年10月調査時から減少した。



【経年変化】

■ 価格は上昇する ■ 価格は下降する ■ 価格は変動しない



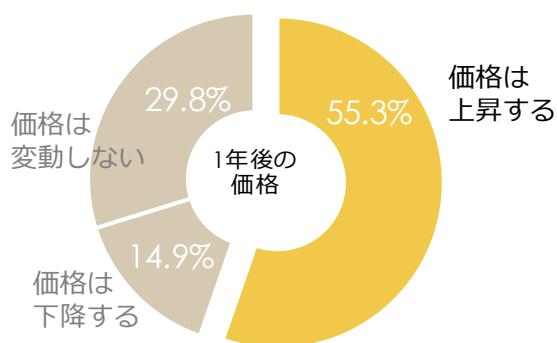
1. 投資用不動産の市況について

1年後「価格は上昇する」と回答した方への質問

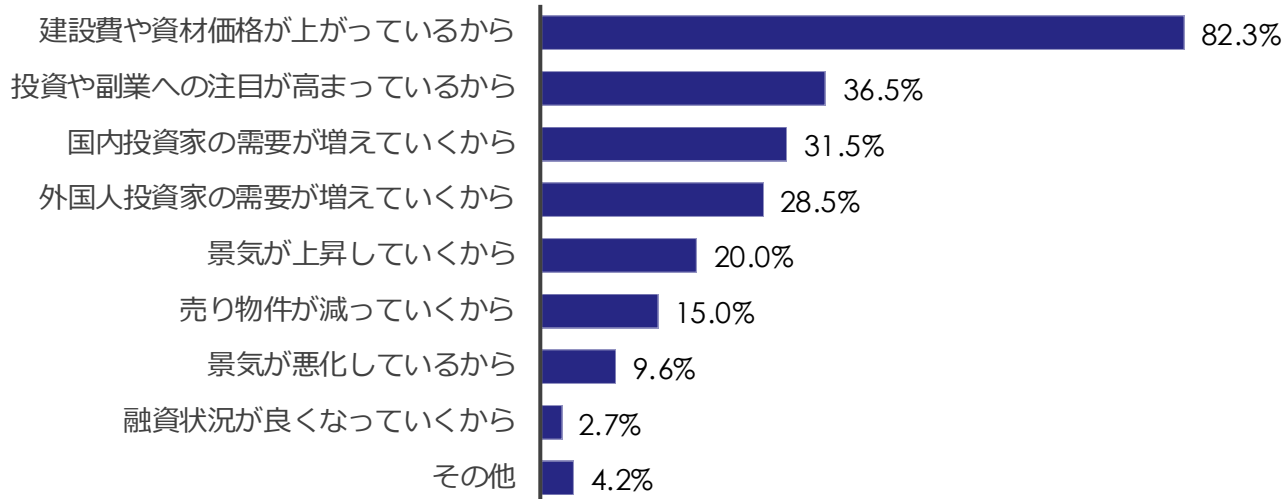
Q 価格は上昇すると思う理由は何ですか？

1年後「価格は上昇する」と思う理由は「建設費や資材価格が上がっているから」で82.3%

1年後に「価格は上昇する」と回答した理由の最多は、「建設費や資材価格が上がっているから」の82.3%となり、圧倒的なシェアを占めた。続いて、「投資や副業への注目が高まっているから」が36.5%で2番目に多く、次いで「国内投資家の需要が増えていくから」が31.5%で3番目に続いた。



1年後「価格は上昇する」と思う理由



複数回答可
「価格は上昇すると思う」と回答した方 n=260

【その他の回答】

- ・ インフレ、円安だから
- ・ 下がる要因がないから
- ・ 株価の上昇と比例してる
- ・ 首都圏の需要が高まる
- ・ 新築が上昇するから
- ・ 世界情勢
- ・ 都市の集約化に伴う、一部エリアへの不動産価値の集中 など

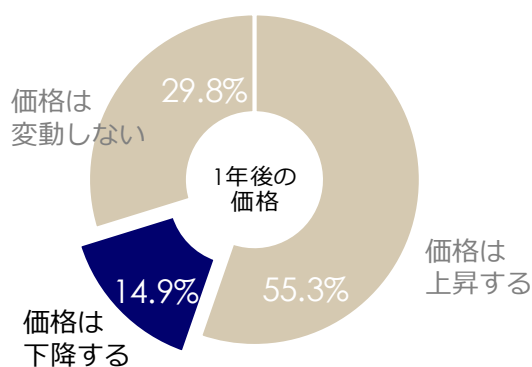
1. 投資用不動産の市況について

1年後「価格は下降する」と回答した方への質問

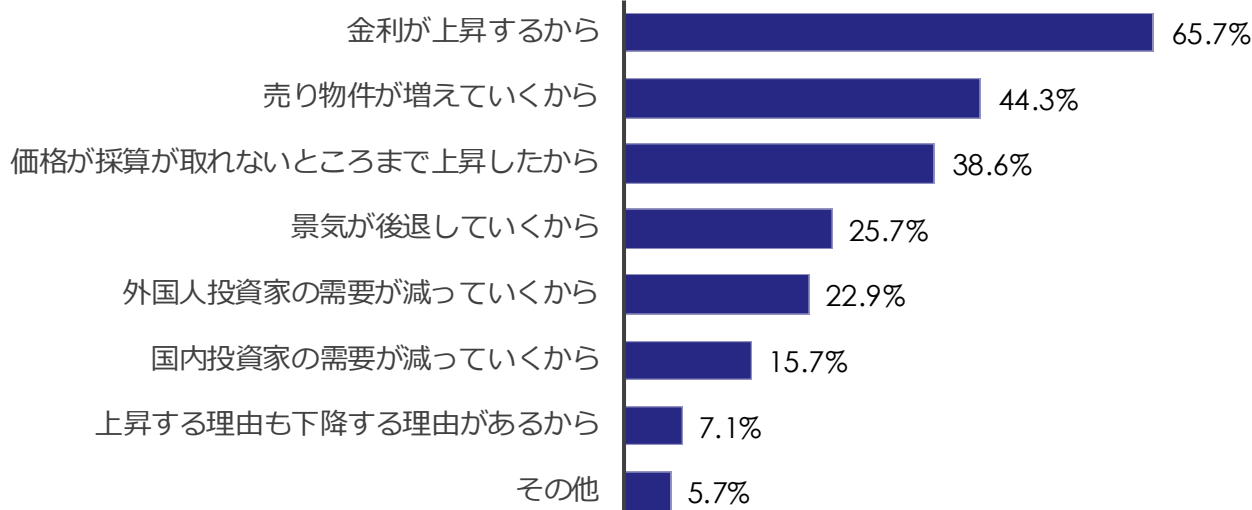
Q 価格は下降すると思う理由は何ですか？

1年後「価格は下降する」と思う理由は「金利が上昇するから」が最多で65.7%

1年後に「価格は下降する」と回答した理由の最多は、「金利が上昇するから」の65.7%。続いて、2番目に多い「売り物件が増えていくから」が44.3%となった。



1年後「価格は下降する」と思う理由



複数回答可
「価格は下降すると思う」と回答した方 n=70

【その他の回答】

- 金利上昇で決算書のスコアリングと頭金を入れられる人しか融資をしてもらえないためだと思います
- 相続物件が出てくる
- 買い手が付いていけない、融資が出にくい、融資ハードルが高い
- 融資の悪化

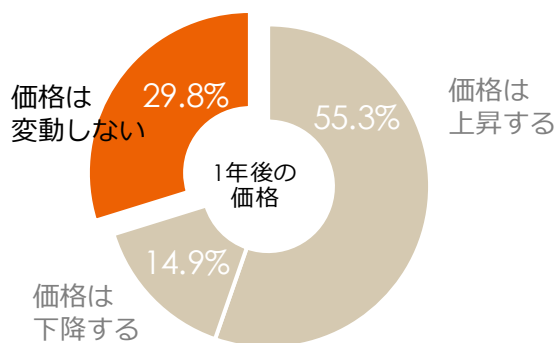
1. 投資用不動産の市況について

1年後「価格は変動しない」と回答した方への質問

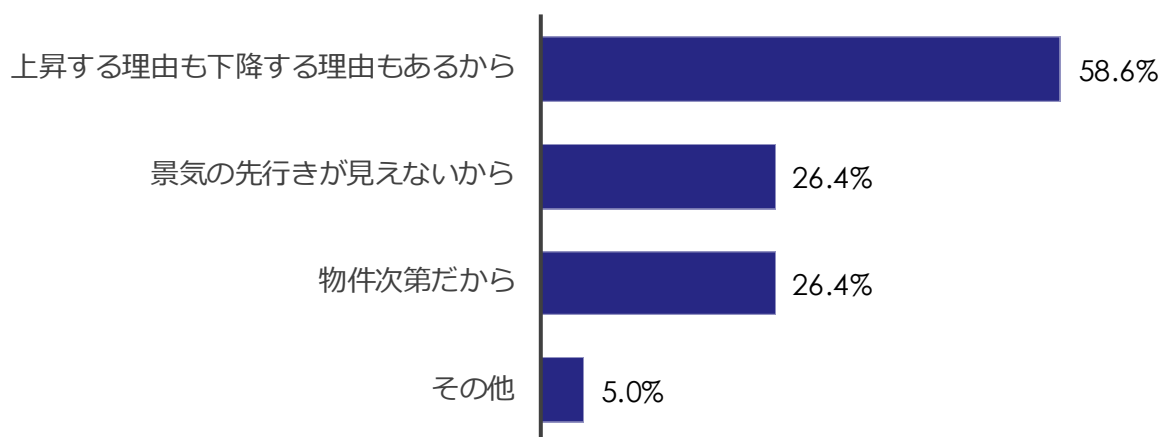
Q 価格が変動しないと思う理由は何ですか？

1年後「価格は変動しない」と思う理由は「上昇する理由も下降する理由もあるから」が最多で58.6%

1年後に「価格は変動しない」と回答した理由の最多は、「上昇する理由も下降する理由もあるから」の58.6%となった。続いて、「景気の先行きが見えないから」と「物件次第だから」が26.4%の同率で並んだ。



1年後「価格は変動しない」と思う理由



複数回答可
「価格は変動しない」と回答した方 n=140

【その他の回答】

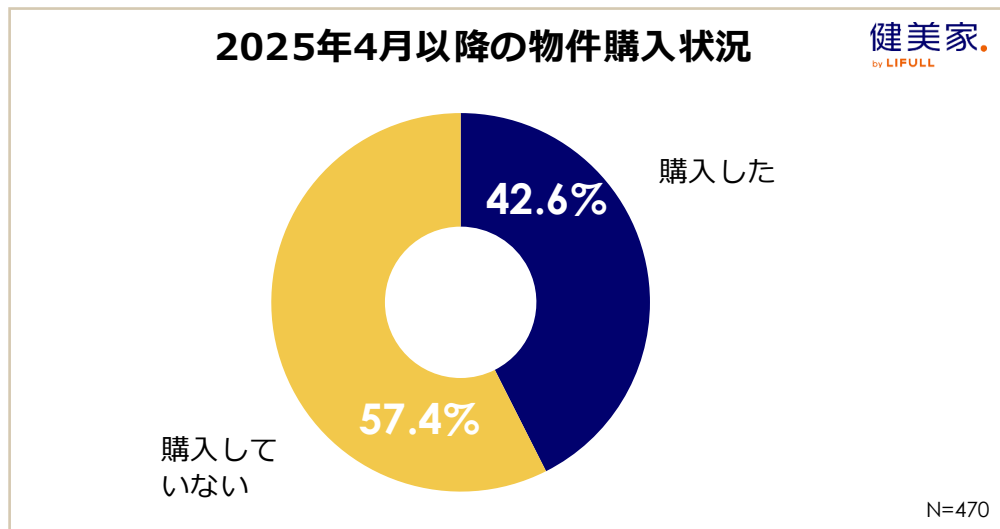
- 1年では変わらないかも
- そろそろ価格が頭打ちしそうに思うから。
- 一定の需要はあるから
- 金利上昇と価格高止まりのため
- 金利上昇による利益率の低下
- 正直、分らない
- 利回りが追いつかないから価格を上げて買い手がつかない

2. 物件購入について

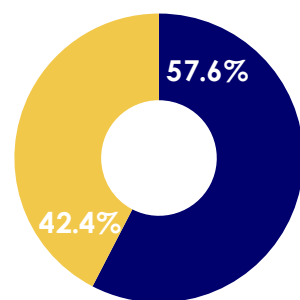
Q 2025年4月以降に物件を購入しましたか？

物件を「購入した」42.6% 半数を下回る

2025年4月以降に物件を「購入した」との回答は42.6%となった。2025年10月の調査（57.6%）から15.0ポイントの減少となり、半数を下回る結果となった。



【過去結果】2025年10月



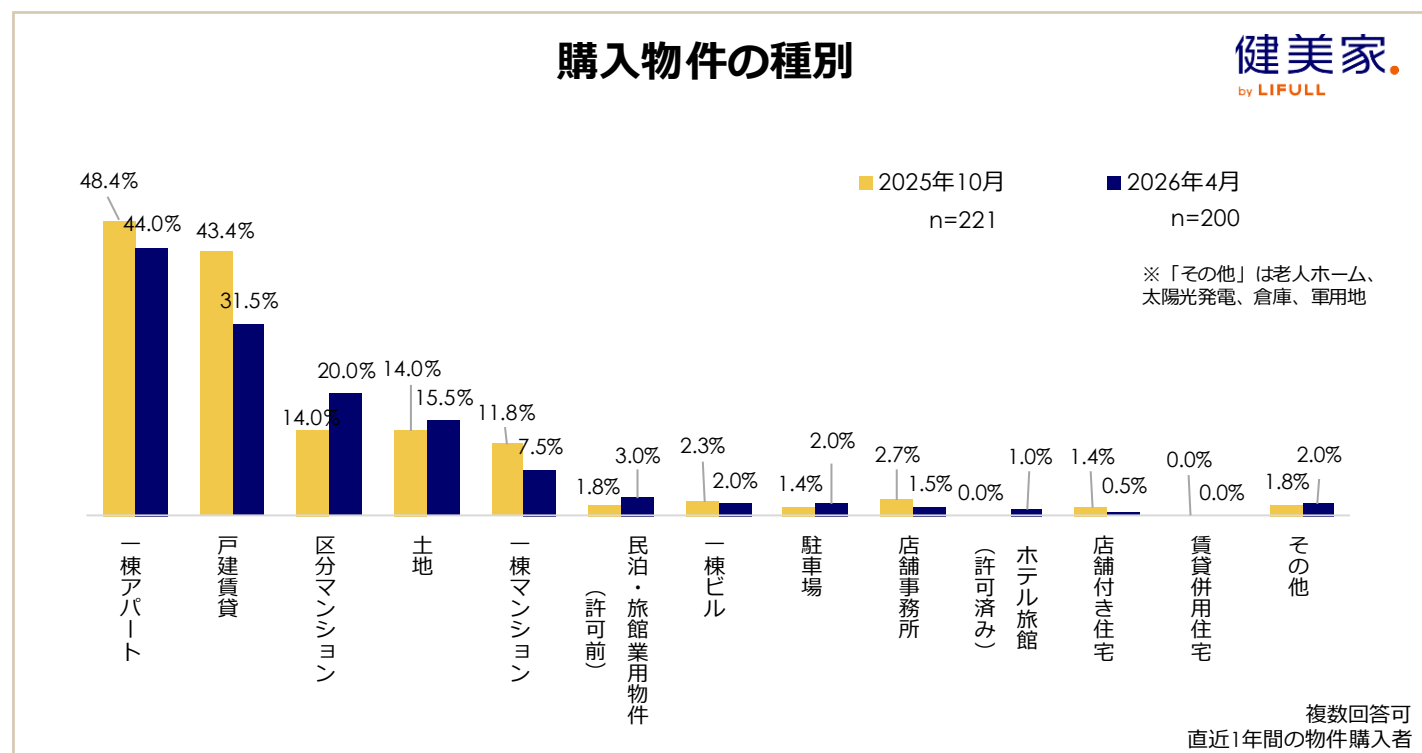
N=384

物件を「購入した」と回答した方への質問

Q 購入した物件の種別は何ですか？

「一棟アパート」が44.0%で最多、続いて「戸建賃貸」

購入物件の最多は「一棟アパート」の44.0%、次いで「戸建賃貸」が31.5%となった。順位に変動はないものの、いずれも2025年10月からポイントを減らしている。一方で、「区分マンション」が20.0%（2025年10月14.0%）に増加し、3番目に浮上した。

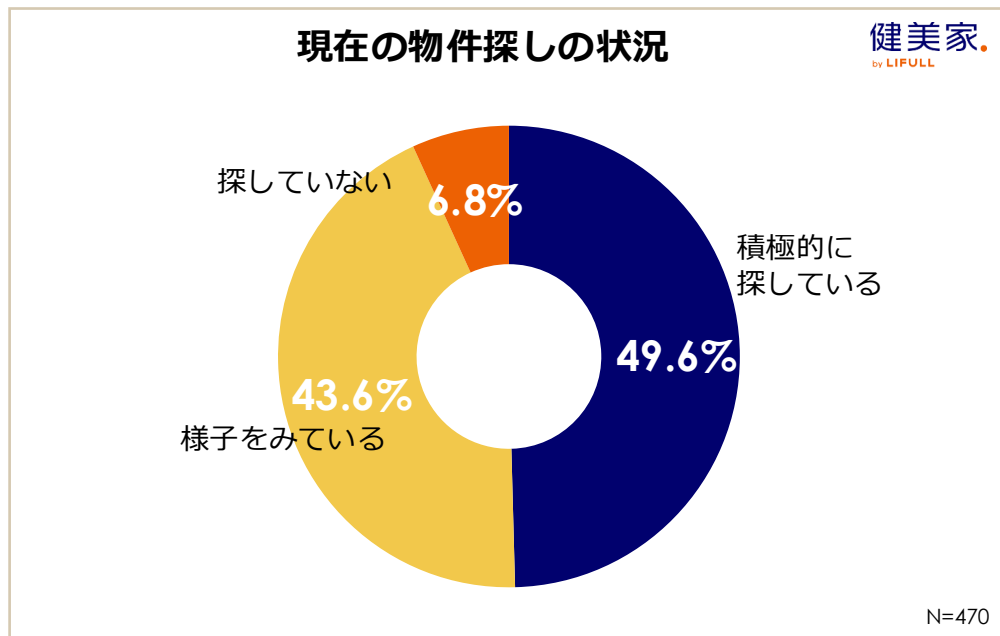


2. 物件購入について

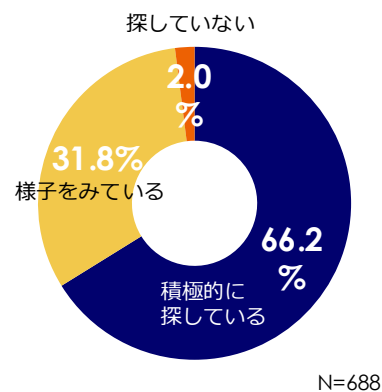
Q 現在、物件を探していますか？

物件を「積極的に探している」49.6%

物件探しの状況は「積極的に探している」が49.6%で最多となった。2023年10月（66.2%）からは減少したものの約半数を維持しており、一方で「様子を見ている」が43.6%に増加した。



【過去結果】2023年10月

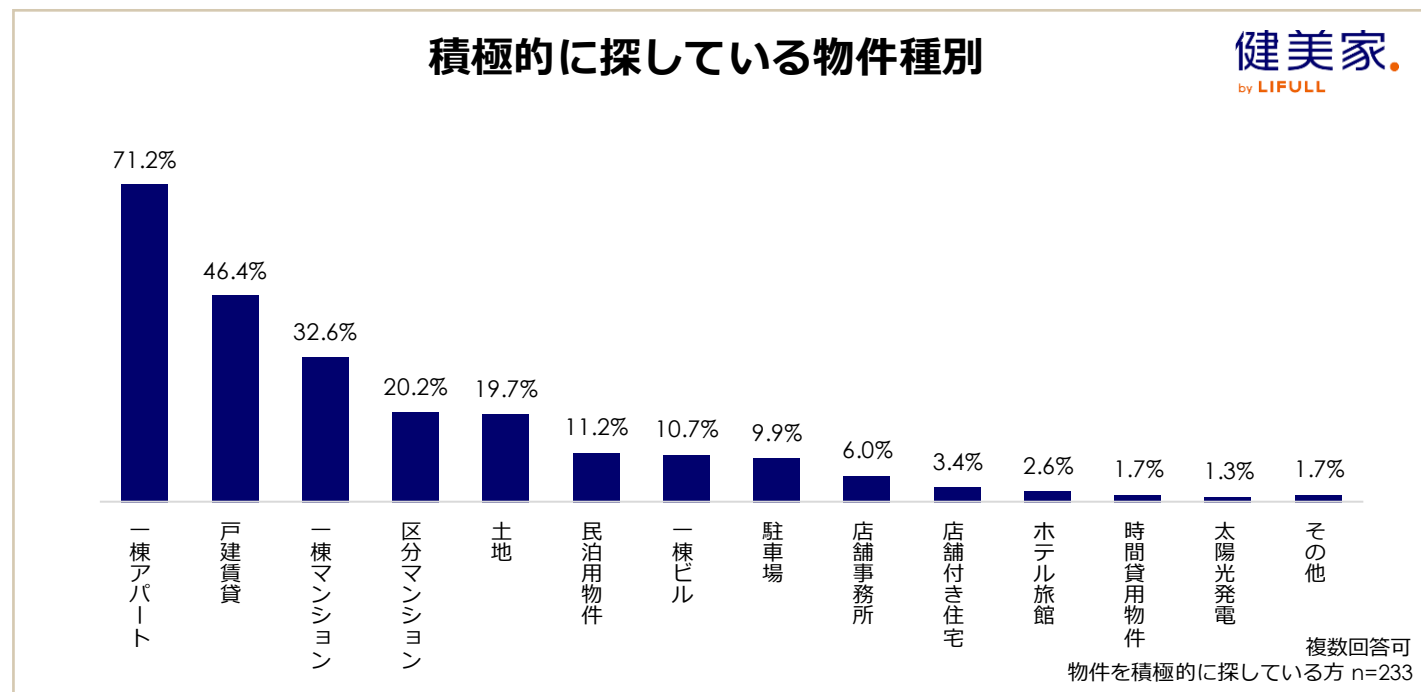


物件を「積極的に探している」と回答した方への質問

Q 探している物件種別は何ですか？

「一棟アパート」が71.2%で最多

探している物件種別の最多は「一棟アパート」の71.2%となった。続いて「戸建賃貸」が46.4%で2番目に多く、次いで「一棟マンション」が32.6%で3番目に続く結果となった。



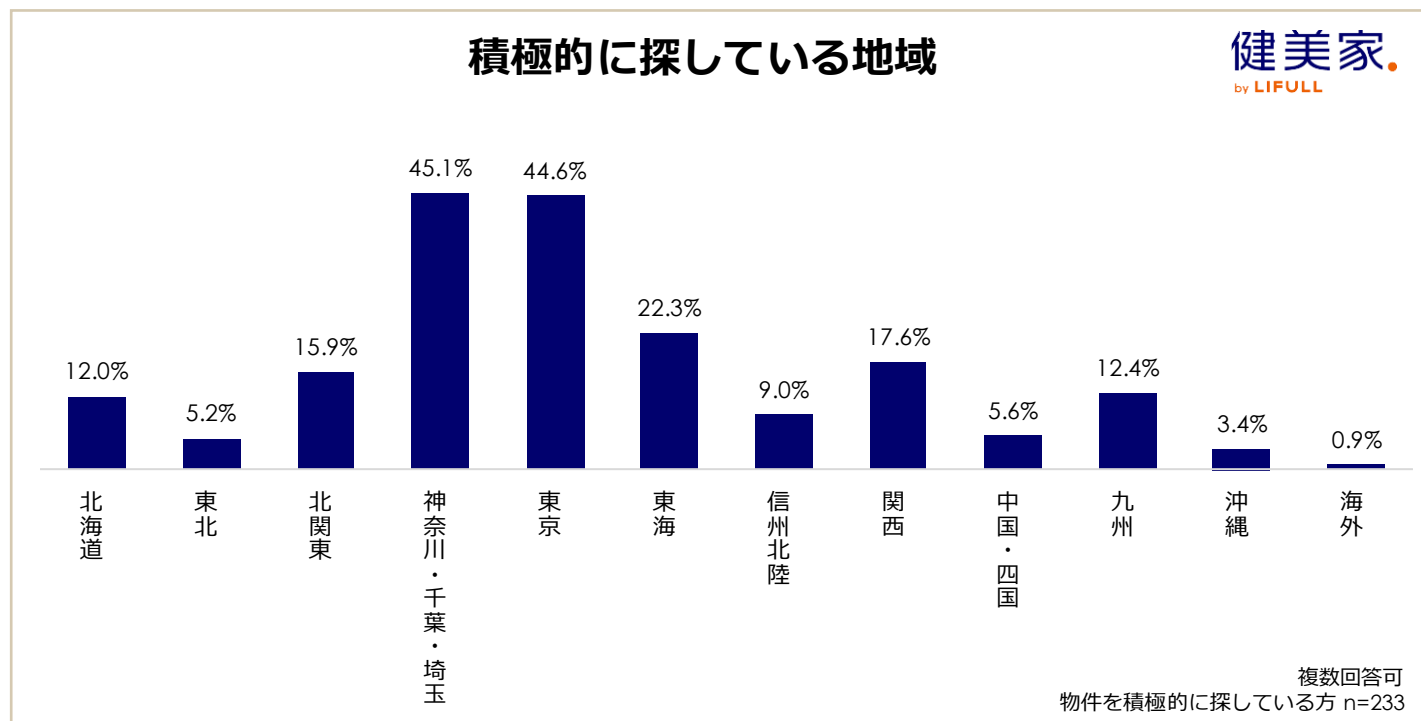
2. 物件購入について

物件を「積極的に探している」と回答した方への質問

Q 探している物件の地域はどこですか？

「神奈川・千葉・埼玉」が45.1%で最多 「東京」が僅差で続く。

探している地域は「神奈川・千葉・埼玉」が45.1%で最多。これらに僅差で「東京」が44.6%で続いており、依然として一都三県への高い投資需要が集中している結果となった。



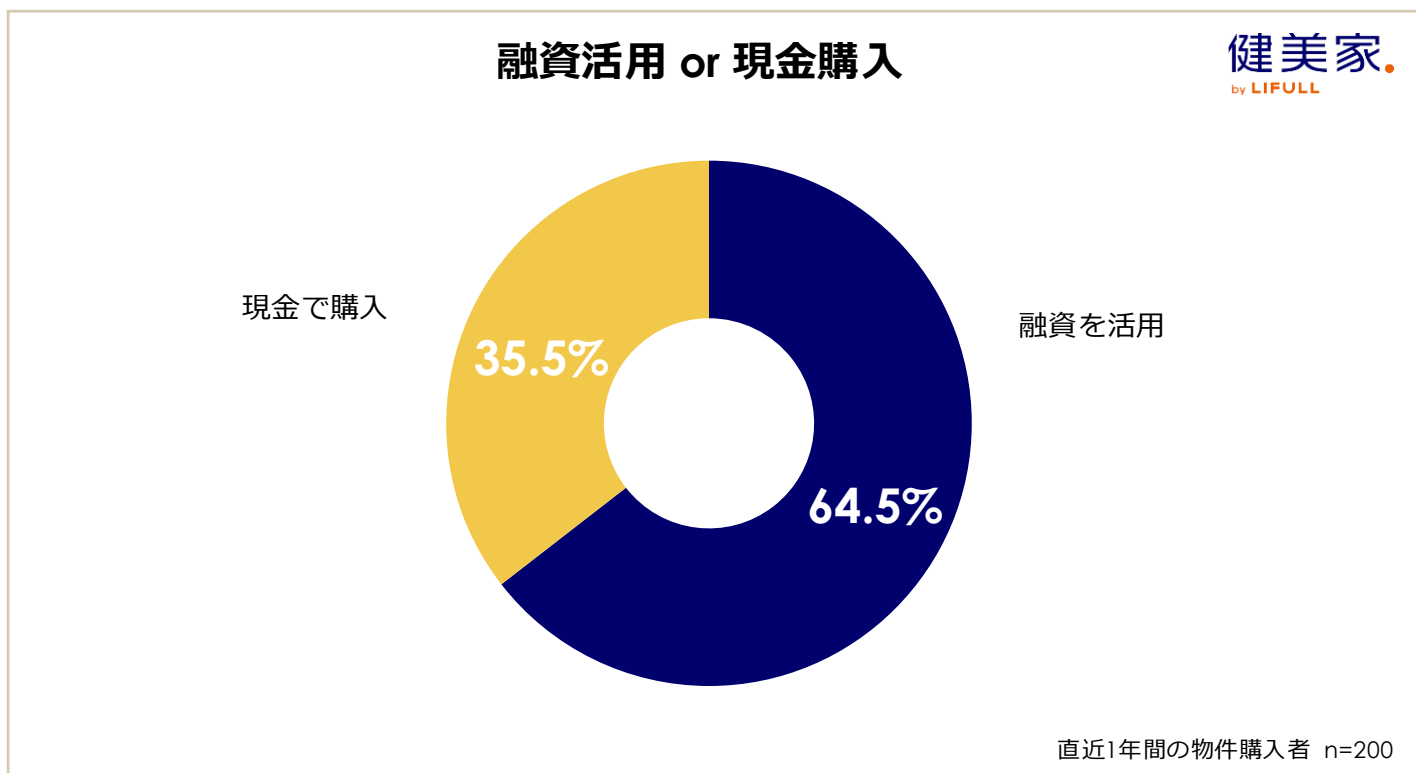
3. 物件購入時の融資環境について

物件を「購入した」と回答した方への質問

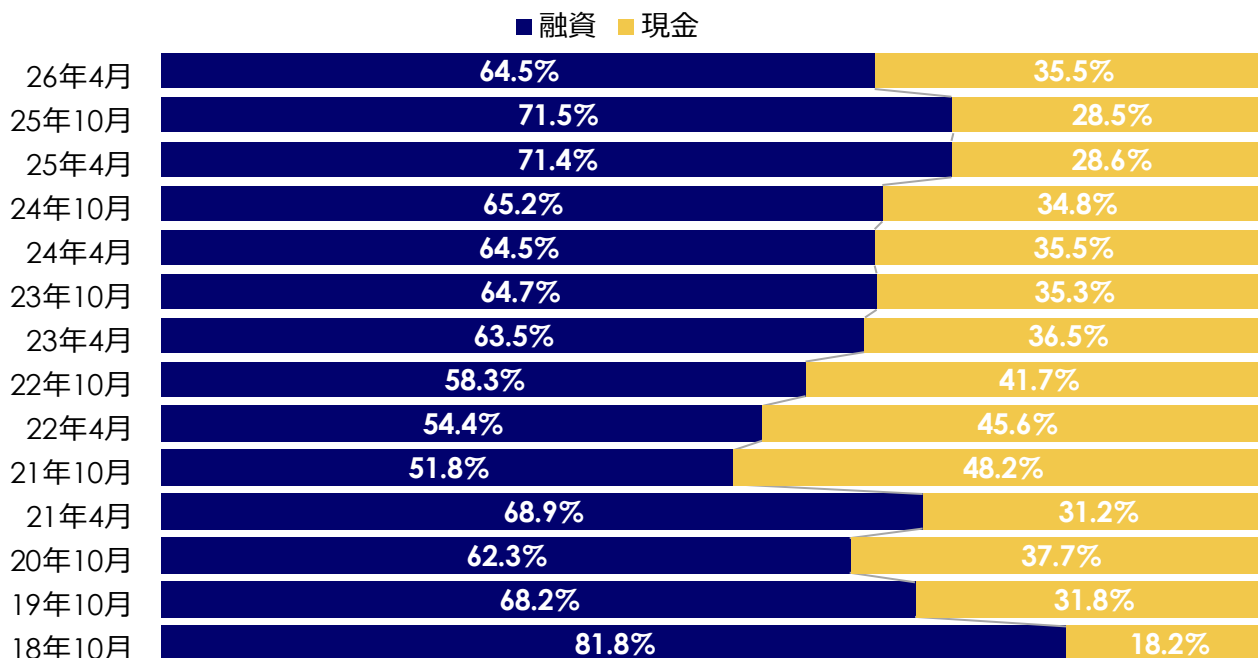
Q 融資を活用しましたか？

「融資を活用した」が64.5%

物件購入に際し、「融資を活用」との回答は64.5%、「現金で購入」が35.5%となり、2025年10月と比較すると融資活用が減り、現金購入が増加する結果となった。



【経年変化】



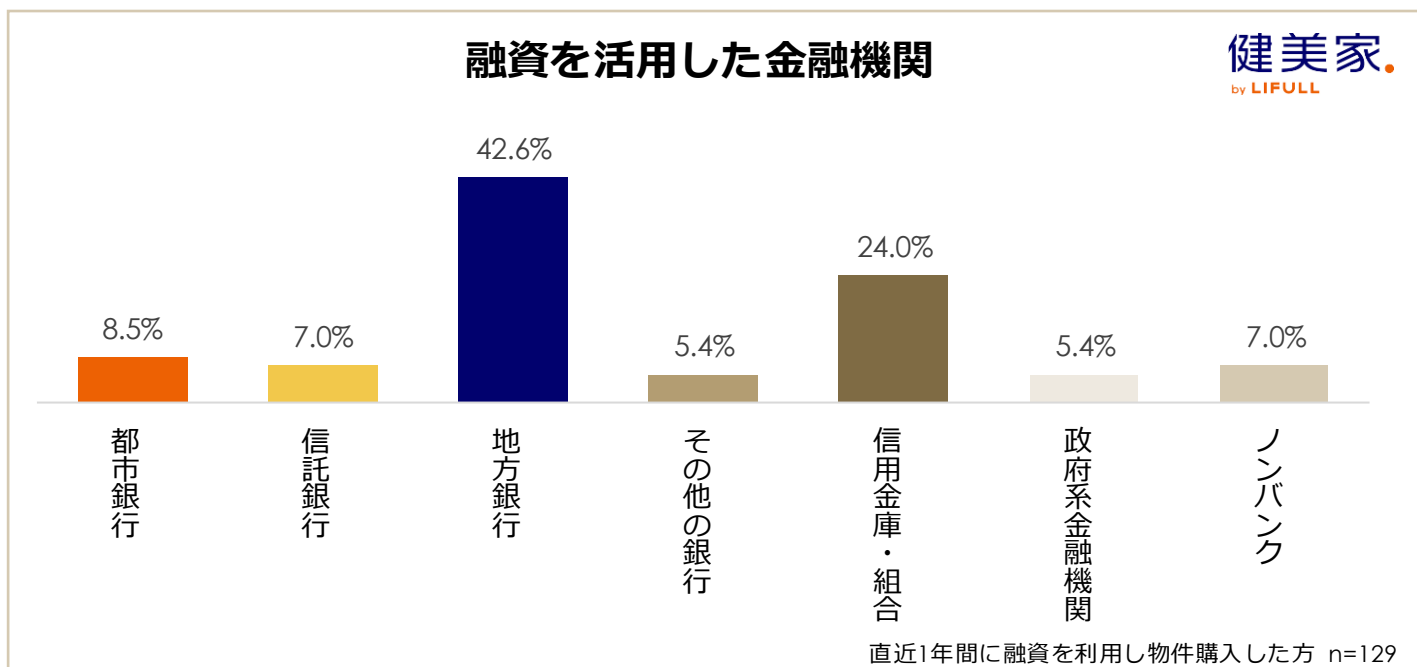
3. 物件購入時の融資環境について

「融資を活用した」と回答した方への質問

Q 融資はどの金融機関を活用しましたか？

「地方銀行」42.6%で最多 「信用金庫・組合」は19ポイントの大幅減少

融資を利用した金融機関は「地方銀行」が42.6%で最多となり、2025年10月の42.4%から微増した。一方で、2番目に多い「信用金庫・組合」は24.0%となり、2025年10月の43.0%から大幅に減少した。



※「信託銀行」は「信託銀行」とつく銀行やオリックス銀行。「その他銀行」はSBJ銀行、ソニー銀行等

【経年変化】

■ 都市銀行 ■ 信託銀行 ■ 地方銀行 ■ その他の銀行 ■ 信用金庫・組合 ■ 政府系金融機関 ■ ノンバンク

調査時期	都市銀行	信託銀行	地方銀行	その他の銀行	信用金庫・組合	政府系金融機関	ノンバンク
26年4月	8.5%	7.0%	42.6%	5.4%	24.0%	5.4%	7.0%
25年10月	3.8%	1.3%	42.4%	0.6%	43.0%	3.2%	5.7%
25年4月	8.2%	5.9%	39.1%	2.3%	32.3%	4.1%	8.2%
24年10月	6.0%	6.8%	36.8%	3.8%	33.8%	2.3%	10.5%
24年4月	5.6%	7.9%	37.6%	5.6%	33.1%	2.8%	7.3%
23年10月	4.0%	5.1%	32.3%	4.5%	38.4%	5.1%	10.6%
23年4月	2.4%	4.8%	42.6%	5.3%	39.1%	5.3%	3.6%
22年10月	5.9%	8.4%	34.5%	2.5%	26.9%	7.6%	14.3%
22年4月	3.1%	9.2%	31.0%	3.5%	40.2%	7.0%	10.5%
21年10月	1.7%	8.5%	28.8%	11.9%	25.4%	11.9%	11.9%
21年4月	6.6%	10.2%	28.5%	13.9%	22.6%	8.0%	10.2%
20年10月	4.4%	5.1%	38.0%	8.0%	20.5%	12.4%	11.7%
20年4月	6.9%	9.9%	24.9%	4.3%	24.9%	15.9%	13.3%
19年10月	7.5%	11.3%	21.1%	3.0%	30.1%	15.0%	12.0%

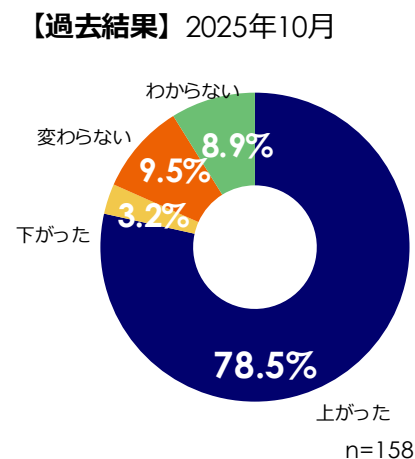
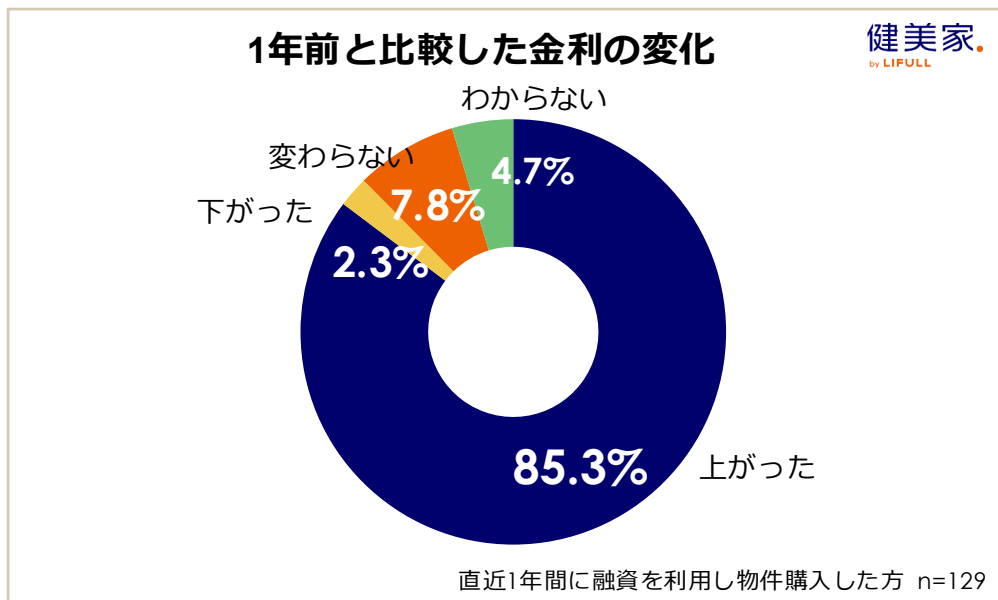
3. 物件購入時の融資環境について

「融資を活用した」と回答した方への質問

Q 金利は1年前と比べて変化しましたか？

「金利は上がった」との回答が85.3%で最多

金利が1年前と比べて変化したかについて、「上がった」が85.3%で最多。2025年10月の78.5%からさらに増加する結果となった。

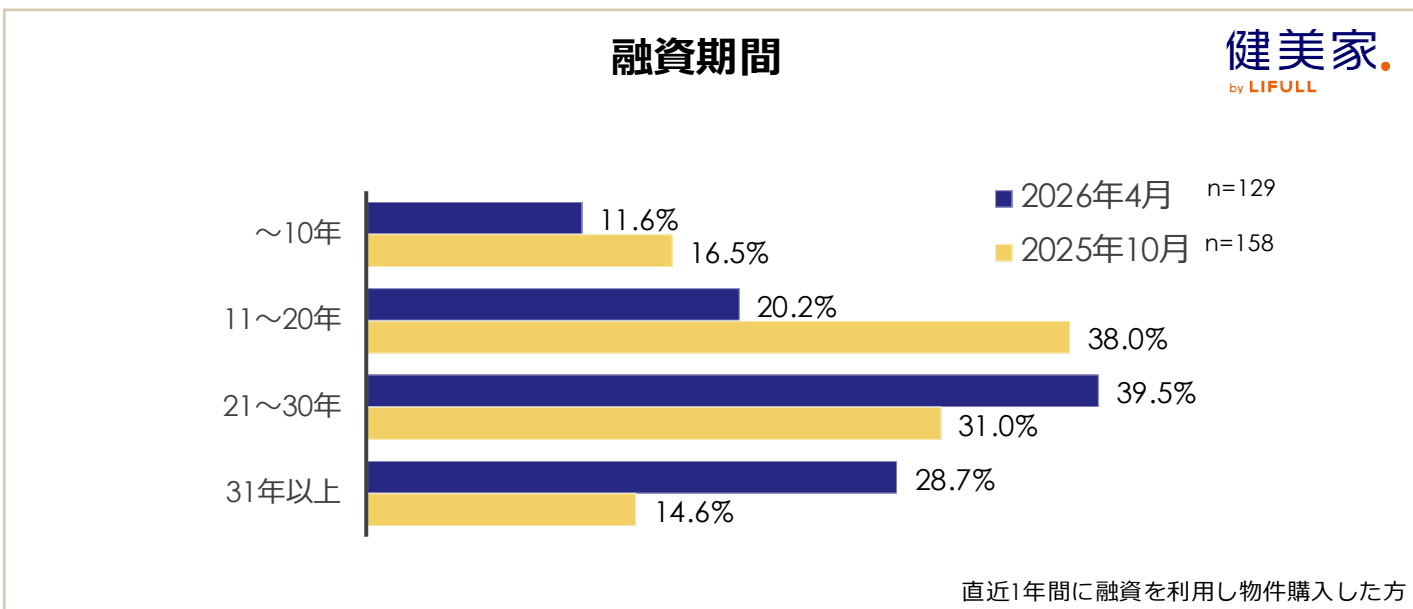


「融資を活用した」と回答した方への質問

Q 融資期間はどのくらいですか？

「21～30年」が最多「31年以上」も大幅増加

融資期間は「21～30年」が39.5%で最多となり、次いで「31年以上」が28.7%となった。2025年10月と比較すると、これら21年以上の長期融資の割合がそれぞれ増加する結果となった。

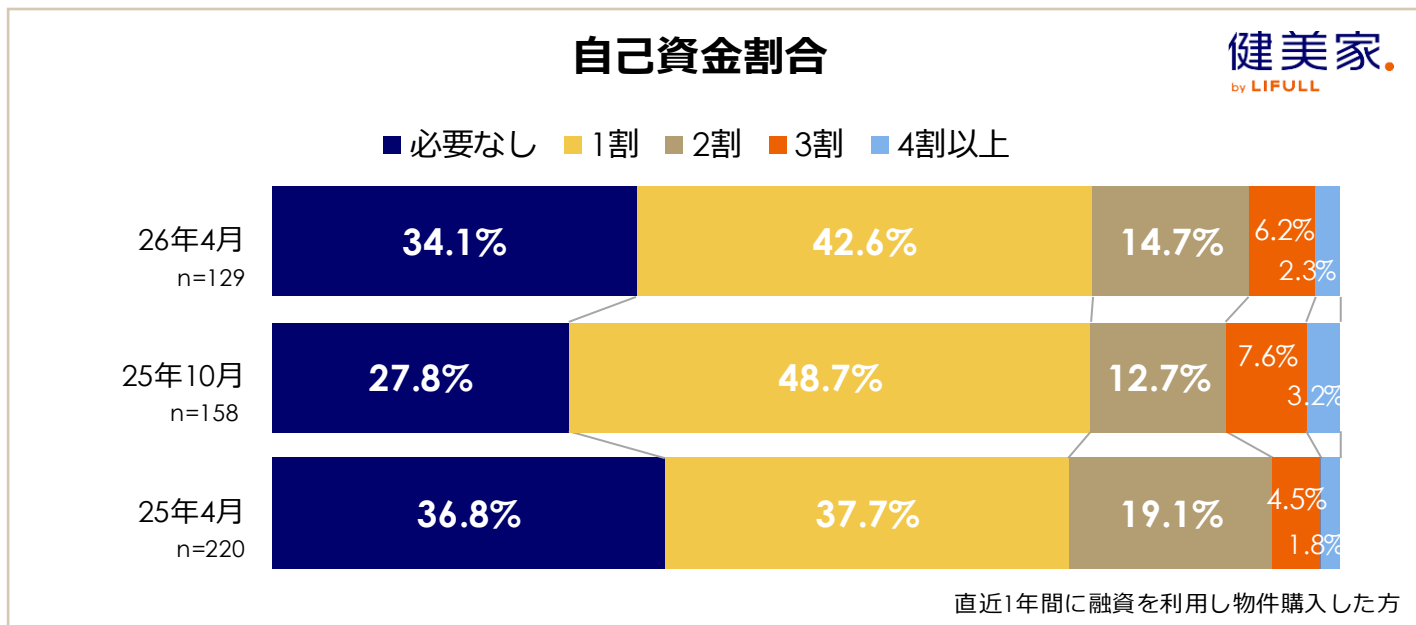


3. 物件購入時の融資環境について

「融資を活用した」と回答した方への質問
Q 自己資金はいくら必要でしたか？

自己資金は「1割」が最多の42.6%

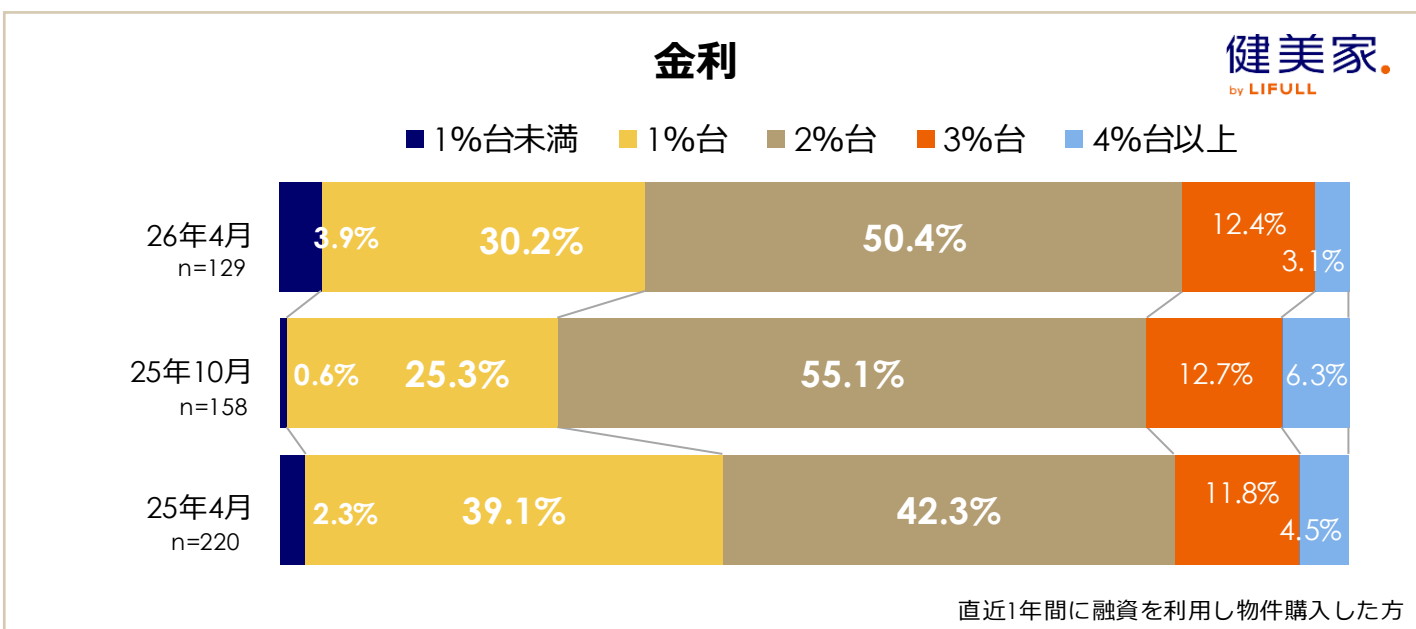
物件購入時の自己資金の割合は「1割」が42.6%で最多、「必要なし（フルローン）」が34.1%となった。



「融資を活用した」と回答した方への質問
Q 金利は何パーセント台でしたか？

「2%台」が50.4%で最多

融資金利は「2%台」が50.4%で最多となった。2025年10月と比較すると、「2%台」が減少した一方で、「1%台」や「1%台未満」が増加する結果となった。



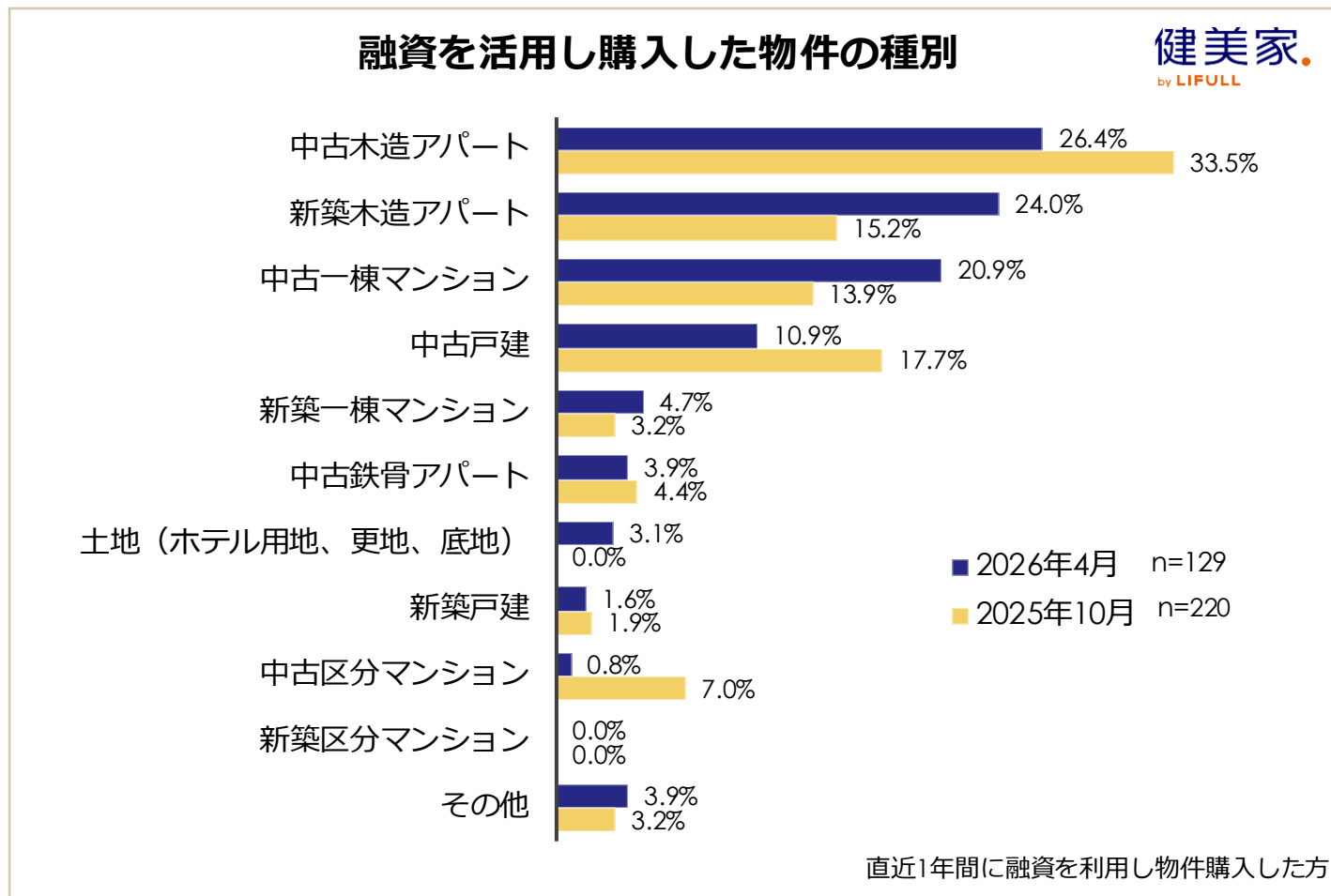
3. 物件購入時の融資環境について

「融資を活用した」と回答した方への質問

Q 物件種類はどのようなものですか？

融資活用、「中古木造アパート」26.4%で 前回33.5%から減少したものの前回に続いて最多

融資を活用して購入した物件の最多は、「中古木造アパート」の26.4%。2025年10月と比較すると「中古木造アパート」「中古戸建」が減少した一方で、「新築木造アパート」や「中古一棟マンション」が増加する結果となった。



【その他の回答】

- 新築老人ホーム
- 太陽光発電
- 駐車場
- 旅館業物件
など

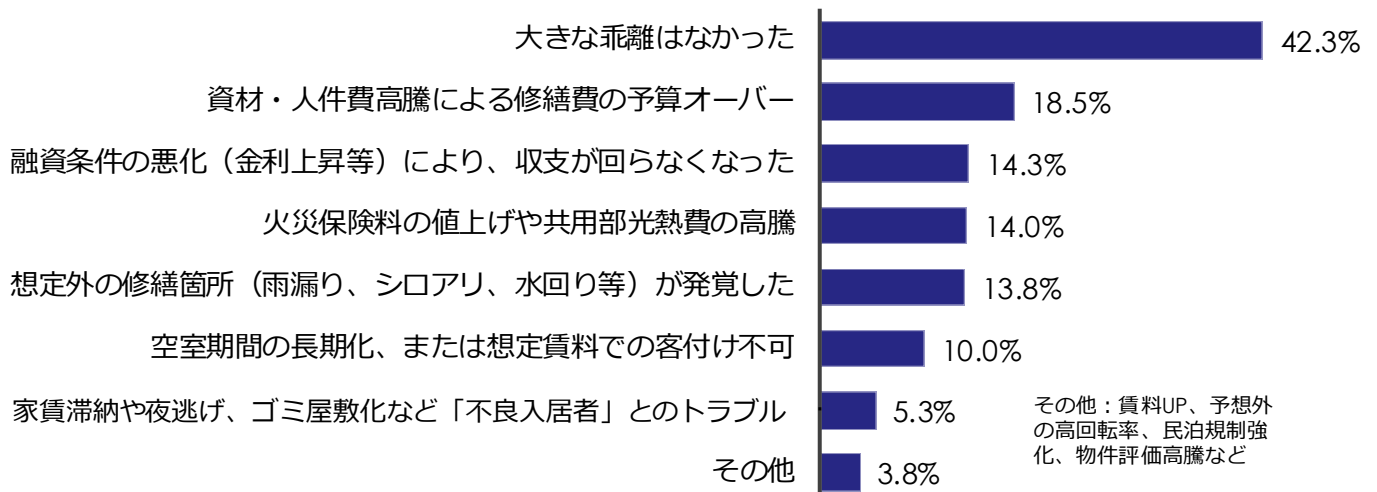
4. 市場変調による「投資計画の誤算」と運営の教訓について

Q直近1年間の運営において、当初の事業計画（シミュレーション）と最も大きな「乖離（誤算）」が生じた項目は何ですか？（複数回答）

事業計画の「大きな乖離なし」（42.3%）

直近1年の運営において事業計画の「大きな乖離はなかった」が42.3%で最多。乖離が生じた項目としては、「資材・人件費高騰による修繕費の予算オーバー」が18.5%でトップ、次いで「融資条件の悪化により収支が回らなくなった」が14.3%で続いた。

直近1年の運営における事業計画との大きな乖離



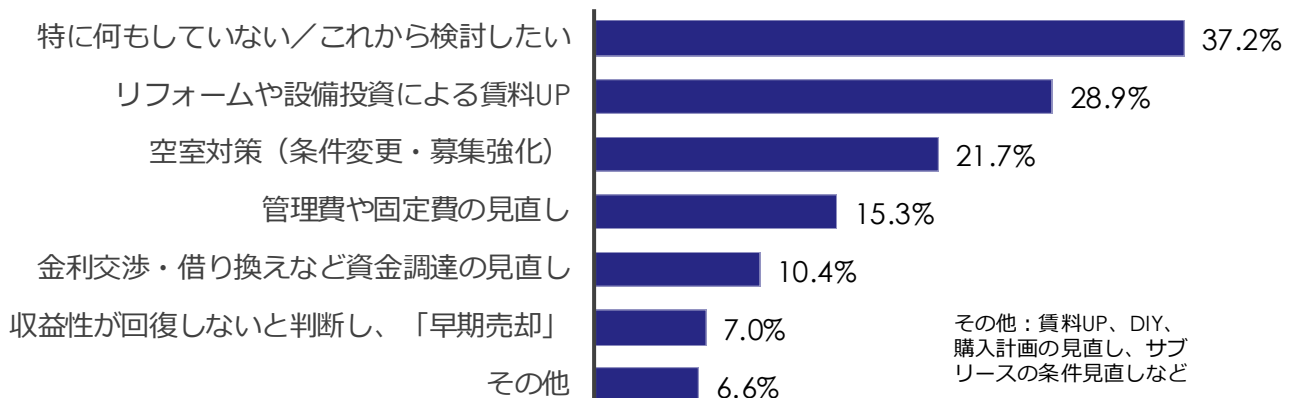
複数回答可 N=470

Q収益を維持・改善するために実施した（または実施中の）対策は何ですか？（複数回答可）

収益の維持・改善のために「特に何もしていない」が最多

収益の維持・改善対策は「特に何もしていない／これから検討したい」が37.2%で最多。具体的な対策としては、「リフォームや設備投資による賃料UP」が28.9%で最も多く、次いで「空室対策（条件変更・募集強化）」が21.7%で続いた。

収益の維持・改善のための対策



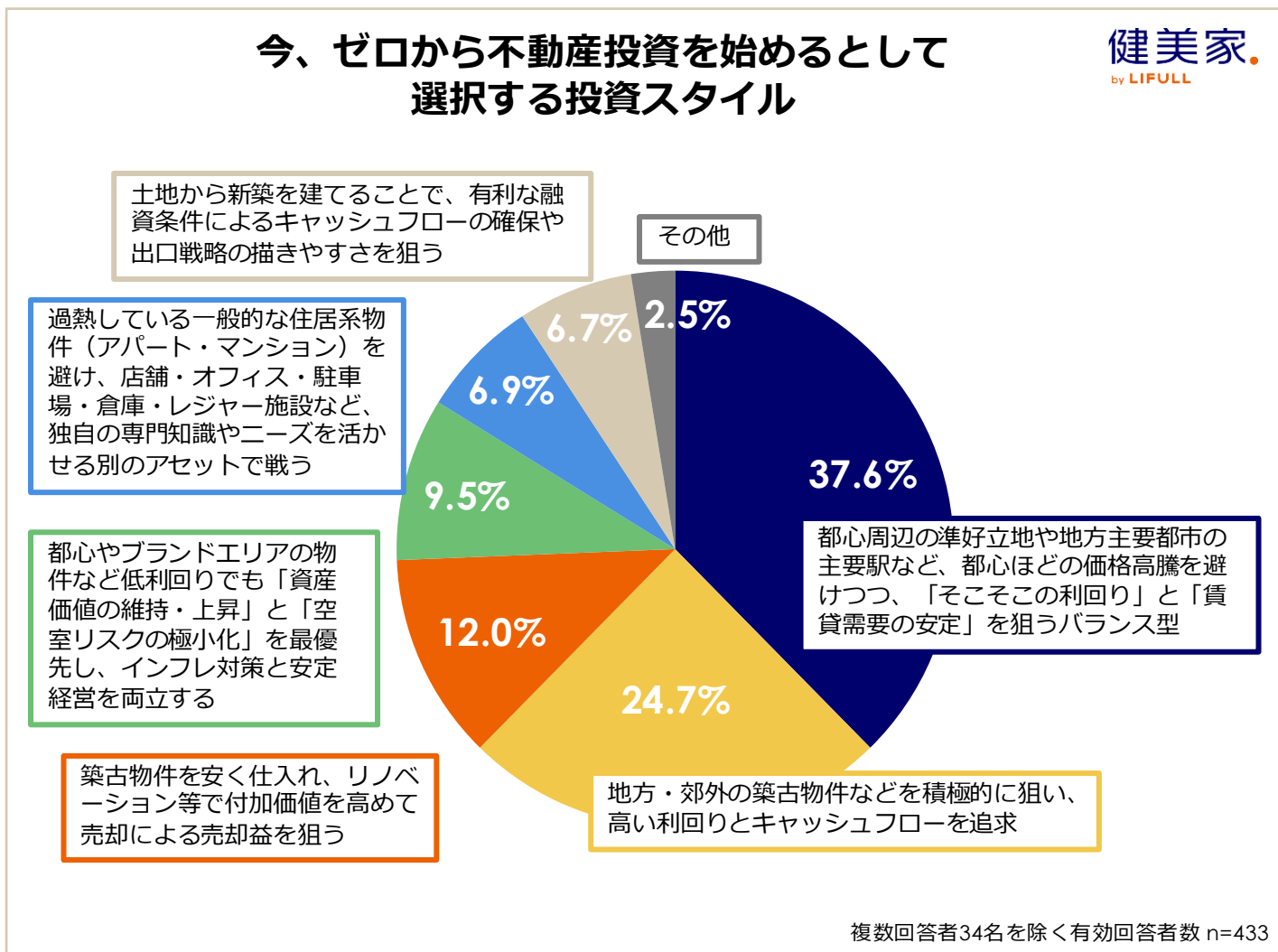
複数回答可 N=470

4. 市場変調による「投資計画の誤算」と運営の教訓について

Qもし、今の市場環境であなたが「ゼロから不動産投資を始める」としたら、どの投資スタイルを選択しますか？（最も近いものを1つ）

今、ゼロから不動産投資を始めるなら「バランス型」が37.6%で最多

ゼロから始めるとして選ぶ投資スタイルとしては、都心周辺や地方主要都市で安定を狙う「バランス型」が37.6%で最多。次いで、地方・郊外の築古物件で「高い利回りとキャッシュフローを追求」が24.7%、築古物件の「リノベーション等で売却益を狙う」が12.0%で続く結果に。



【その他の回答】

- ・ リートやクラファンで軍資金活用と実不動産の様子見
- ・ 一都三県の新築アパートと賃貸併用住宅
- ・ 今ゼロから不動産投資は始めない。せいぜいリートを買うくらい。
- ・ 採算のあう中古RCを辛抱強く探していく
- ・ 宿泊業でCFを稼ぎ、一棟ものにベット
- ・ 出来れば地方で、新築物件と0円物件もらい受けをハイブリッドに進めたい
- ・ 都心で旧法借地権の土地を現金購入した後に賃貸併用住宅を建築する
- ・ 都心の戸建、少ないけど
- ・ 民泊で資金づくり
- ・ 融資が出る銀行に見合った物件を探す など

4. 市場変調による「投資計画の誤算」と運営の教訓について

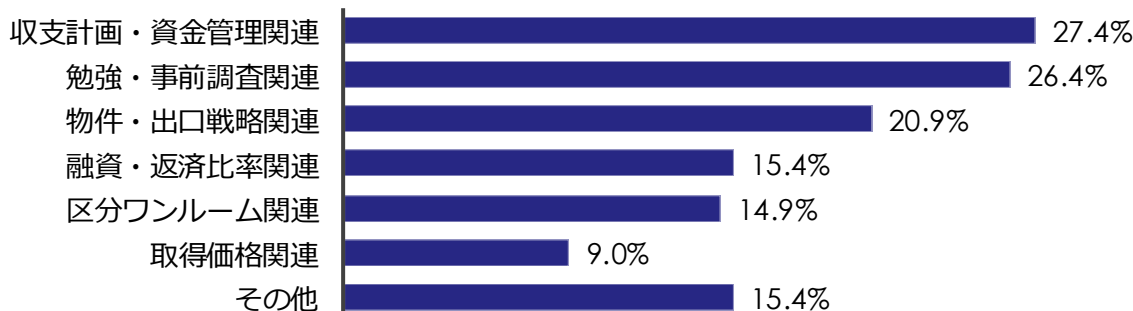
Q. 今の市場環境（物件価格の高騰・金利上昇・物価高）において、これから不動産投資を始める方へ、経験者として「これだけは絶対に避けるべき」とアドバイスしたいことがあれば教えてください。

新規参入者へのアドバイスは 収支計画・資金管理に関することが27.4%で最多

今の高騰・金利上昇局面で新規参入者が避けるべきことの首位は「収支計画・資金管理関連」（27.4%）、次いで「勉強・事前調査関連」（26.4%）となった。目先の融資や高利回りの罫、出口のない物件を避け、金利や修繕費の上昇ストレスに耐える保守的なシミュレーションと自立したリサーチが不可欠との声が上がった。

経験者から新規参入者へのアドバイス

健美家
by LIFULL



n=201

自由記述の任意回答をカテゴリ分類し、複数回答として集計

【回答例】

■ 収支計画・資金管理

- 物件価格が高騰し、金利上昇のリスクも現実味を帯びている今、「空室が出ない前提」や「修繕費を低く見積もった」計画は非常に危険です。
- ストレスをかけて収支計算し、金利上昇、修繕費上昇などのリスク拡大に備えること。など

■ 勉強・事前調査

- エイヤ！と勢いのみで購入すること。買ってから考える。まずは行動！というスタンスは以前より厳しいと感じます。
- 様々な投資スタイルや好みも有るので一概にいけないが、よくよく勉強の上で自身の判断による投資をすべき。など

■ 物件・出口戦略

- 借地権ありや接道、再建築不可物件、未登記あり、私道通行、土砂災害警戒エリア（ハザードマップ）など確認、購入には必要であれば専門家に相談したほうがよい
- 出口が取れない（売却時の買主のペルソナが定義できない）物件など

■ 融資・返済比率

- フルローン、オーバーローン
- 低金利で借り入れをしてギリギリの収支で回すこと。低金利ほど金利が上昇した場合に負担額が増えるため。高金利の場合は少々金利が上昇してもあまり影響はなかった。など

■ 区分・ワンルーム

- 節税スキームの区分投資マンションはさける。早々に債務超過、融資つかなくなる
- 利回りに固執して地方の客付けが困難な物件の購入とワンルーム投資で騙されることなど

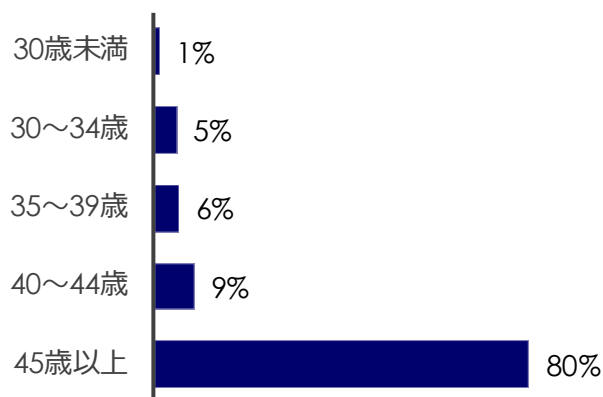
■ 取得価格

- CFの出ない物件、価格上昇を期待した購入
- 高値掴みすると出口がないなど

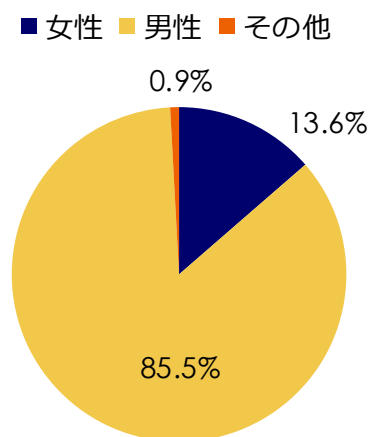
■ その他

- DIYやれ！
- FIREしたいからという安易な理由だけで始めず、勤めながら副業としてCFを盤石にして行きつつ、その先をその後に見据える様な中期的な意識を持ち、買えるから買う、長期で融資が引けるから良いという目先に飛びつくのは危険だと思います。
- 管理丸投げをなるべく避けて、低コストの自主管理でも効率良くしっかりと管理のされた物件を目指す。借入金額を圧縮して自己資本比率の高い不動産投資を目指す。
- 物件価格の高騰・金利上昇・物価高に関わらず、不動産は縁。関わる者すべてととにかくコミュニケーションをよくしないこと
- 安易な家賃の値上げなど

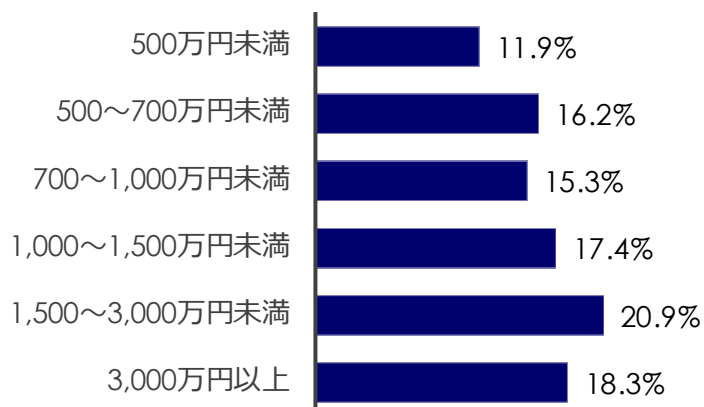
■ 年齢



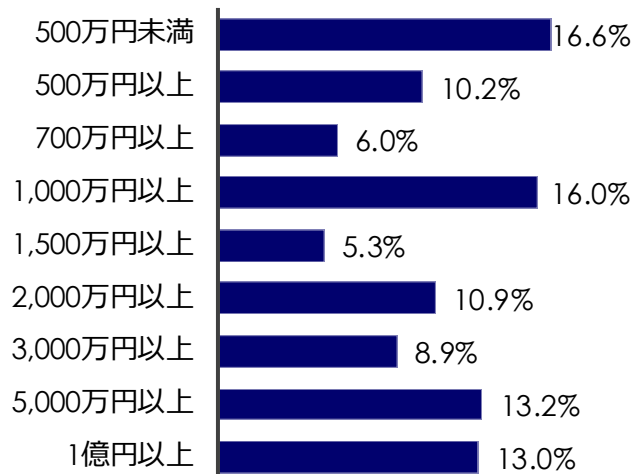
■ 性別



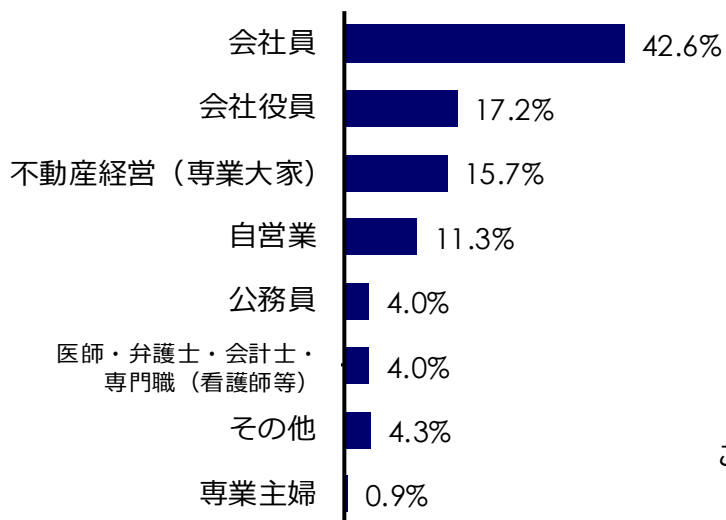
■ 年収（家賃収入も含む）



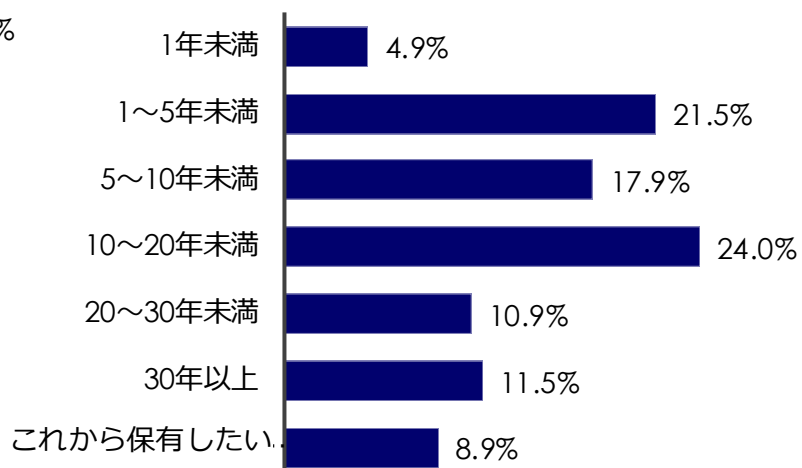
■ 自己資金



■ 職業

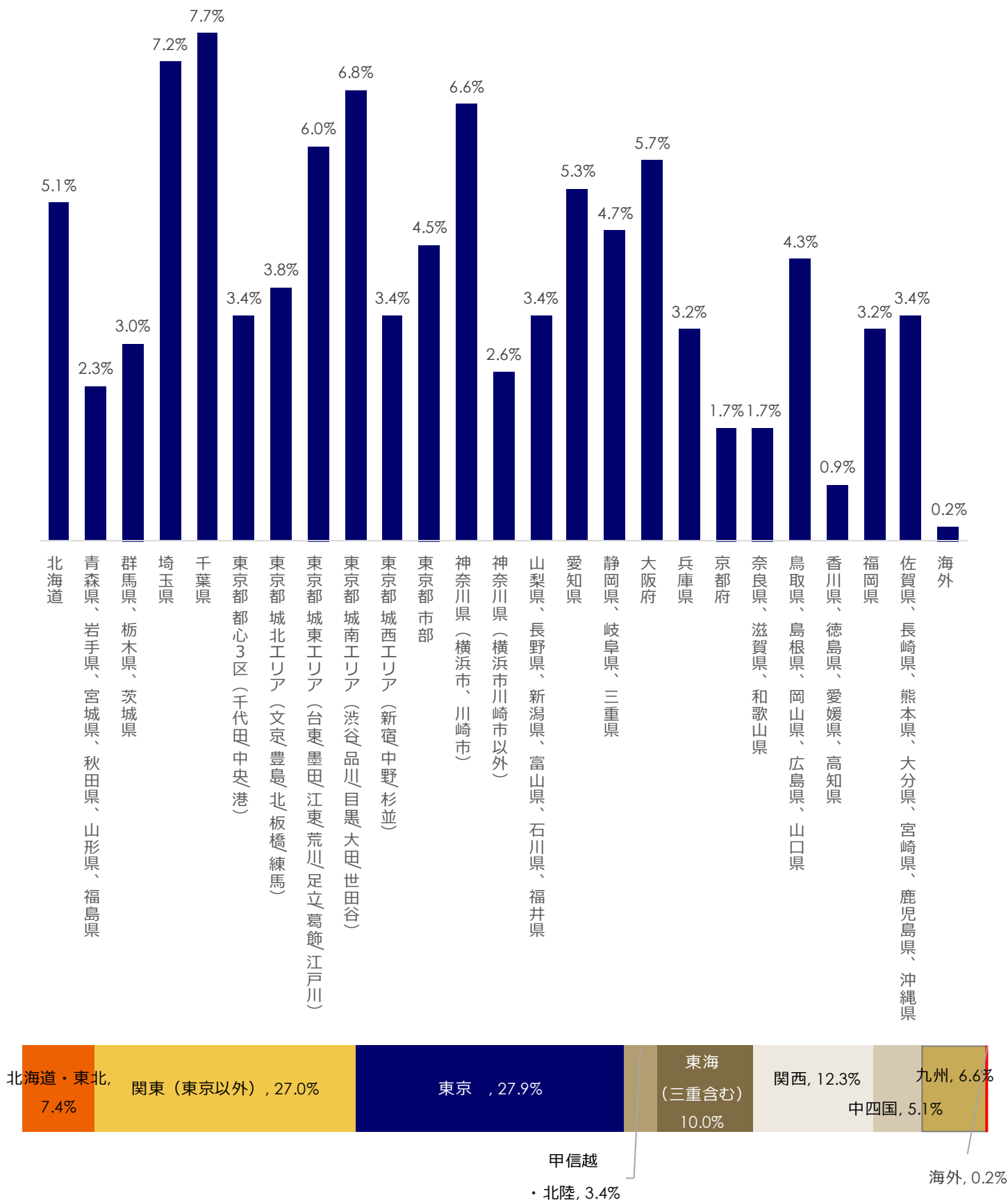


■ 投資歴

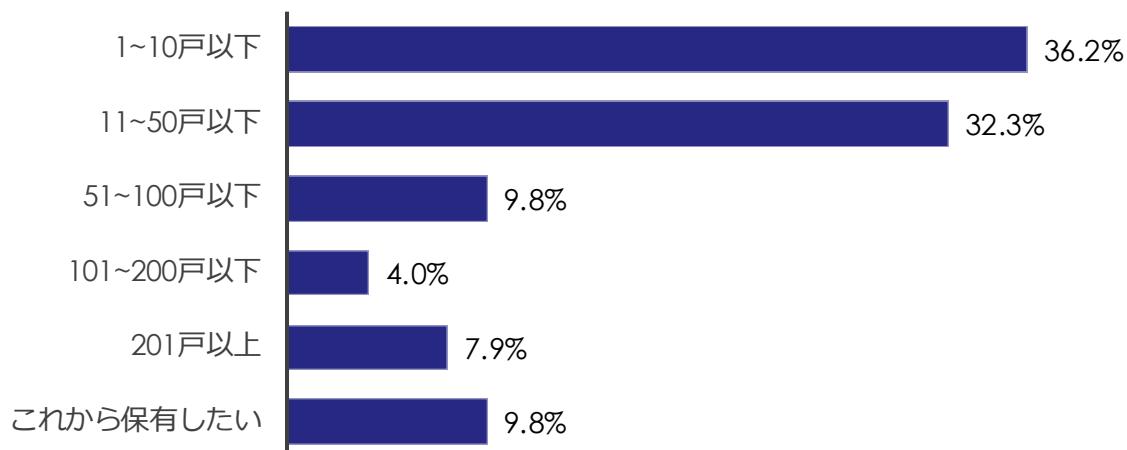


5. 回答者属性

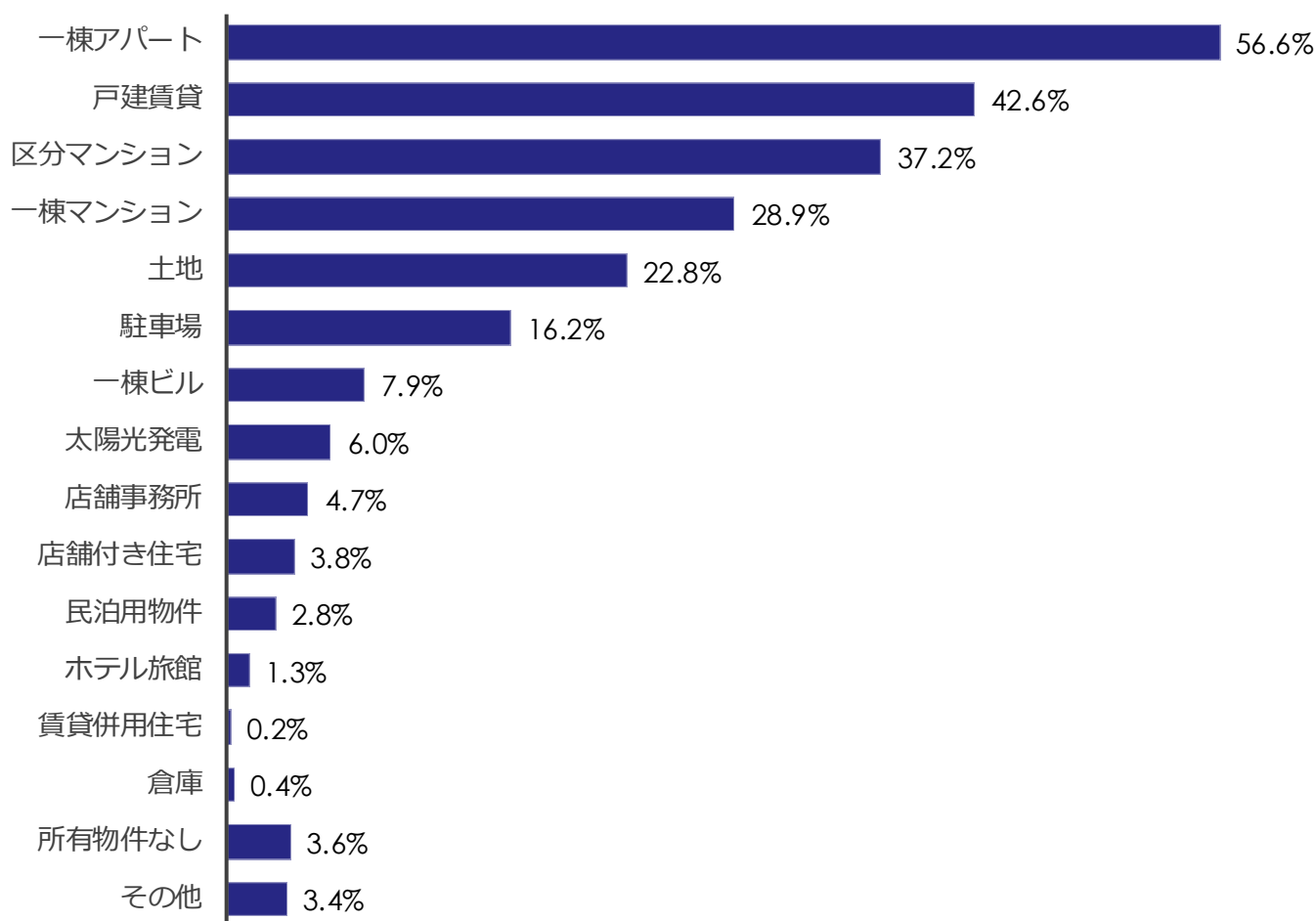
■ 居住地



■ 所有戸数



■ 所有物件種別 複数回答可



※「所有物件なし」に「自宅のみ所有」も含む

※「その他」は寮、コインパーキング、コンテナトレーラー、シェアハウス、軍用地、倉庫、貸工場、貸倉庫、老人ホームなど